

ラブダブル～アクセル を継ぐ少年と9人の女神 達

灼炎のアポロ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

この作品はラブライブと仮面ライダーダブルのクロス作品ですが主人公は照井竜と亜樹子に出来た子供が生まれその子がアクセルに変身してμ'sのみんなを守る為に戦うオリ主とμ'sのメンバー達がメインで進んでゆく物語ですがラブライブの原作寄りめです

目次

編

自己紹介とキャラ設定	1
プロローグくアクセルを継ぐ少年の始まり	
前編	4
プロローグくアクセルを継ぐ少年の始まり後編	12
第1話少年と少女達の最初の出会い	
く前編	24
第1話少年と少女達の最初の出会い	
中編	31
第1話少年と少女達の最初の出会い	
後編	52
第2話ワンダーゾーンで振り切るぜ！前	

自己紹介とキャラ設定

ラバダブルとアクセルを継ぐ少年と9人の女神達

登場人物

てるいゆうた
照井優太

身長170cm、体重60kg、年齢17歳

得意な事&好きな物、体を動かす事、ダンスや歌を歌う事、料理をする事

苦手な事&嫌いな物、理不尽な理由で人を傷つける奴、勉強が少し苦手、嫌いな食べ物

物はトマト

この作品の主人公でありオリジナルキャラです。照井竜と結婚した亜樹子との間に生まれた子という設定です。性格は竜のクールな性格を継いでおり、普段はクールなのだがやはり亜樹子の子でもある為気の許せる人には伝家の宝刀スリッパでツツコミを入れるとゆう以外な一面も。顔は竜にそっくりであるが、後ろ髪が長い為いつも髪の毛をくくっている。ある事件をきっかけに父である竜が仮面ライダーと知る。そのある事件を気に音ノ木坂学院のテスト生として学院に入るそこでμsのメンバー達と出会います。sのみんなをサポートするかたわら、μsに迫り来る財団neoの恐怖から

守る為に父竜からアクセルメモリーとベルトを受け継ぎ仮面ライダーアクセルとなりみんなを守る為に戦う。

てるいりゆう照井竜、風都を守った仮面ライダーアクセルであり警察官で優太の父親。ある事件で大怪我をした竜は優太にアクセルメモリーとベルトを渡し新たな敵から自分の代わりにてるいあきこμ, sを守れと言う歳は40後半ぐらいです。歳以外は原作通りです。

てるいあきこ照井亜樹子、照井竜の妻であり優太の母である。相変わらず明るい性格でスリッパでツツコミを入れるのは相変わらずである。

左翔太郎、《ひだりしようたろう》風都を救った、仮面ライダーWであり探偵である照井竜と風都と一緒に救った仲間であり親友である。

照井と歳は同じぐらいだが独身であるが弟子が2人いる。性格は原作通りで相変わらずである。

フィリップ、翔太郎のかけがえない家族であり。一番の相棒である。データ人間であつた為か肉体年齢は昔のままとゆう設定です。歳は翔太郎達と同じです。相変わらず検索好き興味を示したら星の本棚に入つてのめり込む癖は相変わらずであるが昔に比べある程度性格は穏やかになった。他にもダブルからキャラを出して行きますが今はこれぐらいです。

次は新たな敵組織の紹介です、ミュージアムneo

ミュージアムの生き残り達が密かに財団Xにもう一度助けてもらいneoとして新しく出来た過去に翔太郎達が壊したメモリを復元させ風都の街の外にガイアメモリをばら撒き事件を起こしてなぜか音ノ木坂学院とμ sのメンバーを狙っている。と言う設定ですμ sのメンバーは原作通りですが少し性格改変をするかもしれません。んが基本は原作通りです。

プロローグ〜アクセルを継ぐ少年の始まり 前編

ある日の夜の出来事である仮面ライダーである竜と翔太郎は、ある情報を元にある廃棄にいた。

翔 《おい照井ここで間違い無いよな？》

竜 《ああここで間違い無いneoの連中がここを出入りしていると言う情報は当たっている見ろ》

廃墟の前を翔太郎が見てみると、マスカレード達が何かを運んだり出しているのが見えた。

翔 《はあ全くどうしてあんな連中はこうゆう所を好むかね？》

竜 《知らんとりあえず行くぞ！今日は息子の誕生日を祝ってやると約束をしているこんなところで、時間を潰すのが勿体無い》

翔 《そうだな優太の誕生日だったな早くケリを付けて祝ってやるか》

今日は照井竜の息子である優太の17歳の誕生日でもある為2人ともさっさとミュージアムの生き残り達を捕まえて終わらせたいと思っていた。

マスカレード《誰だ!》

翔《おっと見つかったな行くか照井》

竜《ああ行くぞ!》

2人はマスカレードの前に立ちそれぞれの変身ベルトを腰に装着した。

翔『さあーお仕置ききの時間だ、行くぜフライリップ! joker!!?』

こことは別の場所で本を読んでいたフライリップが言う。

フ『もちろん! cyclone!!?』2人はガイアメモリ構えた直後ガイアウイスパーがなるそして、変身!!?

《cyclonejoker》翔太の周りに風が吹き抜けて行き姿が変わった風都を悪から守って来たヒーロー仮面ライダーダブルに!!?

翔、フ『さあーお前の罪を数えろ!!?』

横に立っていた照井も赤色のUSBメモリを押すとAxel!!?

竜『さあ振り切るぜ!!?変つつ進!!?アクセル!』

するとエンジン音が聞こえ照井竜も変身した加速の記憶を秘めた赤き戦士仮面ライダーアクセルに!!?

翔フ竜《いくぜ(よ)(ぞ)!!?》そして2人で1人のライダーと赤きライダーはマスカレードドーパントを叩きのめしながら廃墟の地下に行くのだった。

? (ボス、仮面ライダー達がここに向って来て居ます)

ボ（そうかとうとうここを嗅ぎつけたかまあ無駄な事だがな）

謎の男にボスと呼ばれた男は薄く笑みを浮かべていた、そしてその男の周りには謎の装置が不気味に光っていたのだった、

翔太郎と照井がマスカレードを倒しながらある扉の前に着いた。

ア（フライリップここで間違い無いか？）　　ダ（フ）（ああここで間違い無いよ照井竜、

ここでガイアメモリを作っているようだ）

ダ（翔）（よしだったから早くかたをつけて照井の家に行くか！、あきこと優太が待つてらるだろうしな）。

ア（そうだな所長と優太が待つてる行くぞ！）　　そうして目の前の扉を蹴り開けて入っていった瞬間周りが明るくなるのだった。

そこにはガイアメモリを制作する為の機械が大量に置いあった。

三人は驚いていた、

ア（まさかここまでとは、思わなかったぞいったい何の為にこれだけの機械を？）

ダ（さあなこういった輩が考える事は相変わらず口クでも無い事に使う為だろ）、
？（お前達2人のライダーに復讐する為とある夢を実現させるためだ、）

そんな会話して周りを探索していたら急に声が目の前の暗闇から聞こえて来た。

ダア（誰だ?!）3人声が建て物の中にこだまする、するとそこからフードかぶった男が出てきたすると

?（初めましてだな、ダブルにアクセル）と男は言ったのだった、

ア（誰だ貴様は?）アクセルが叫んだ。

?（私はミュージアムネオのリーダーだそしてお前達に野望を砕かれたミュージアムの生き残りでもある。）

ダ（テメエが親玉か!!?これだけのガイアメモリ制作機何使うきだ、

?（簡単だよ君達への復讐と風都の街とは別に音ノ木坂とゆ場所でガイアメモリを使いガイアインパクトを起こす!!?）

何?と3人は叫んだ何故なら風都でそのガイアインパクトを起こそうとしていたフィリップの實の家族である園崎家と戦いそれを阻止したのだから。

フ（馬鹿な!そんな事したら一体何人もの犠牲が出ると思っているんだ!）

するとフードの男はそんな事はどうでもいいミュージアムの夢を実現させると叫ぶだけだった、

アダ（くだらない野望なそんなもの俺たちが叩き潰す!!?）

そう叫んだ2人のライダーは構えをとった。

？（仕方ありませんねここであなた達を仕留めましょう）すると、男はロストドライブを出し腰に装着しメモリを押しした eternal!!?、

ダア（☒）ふたりのライダーは驚いたフードの男が使っているメモリを持った男と過去に戦った事があるのだから？（変身 eternal）変身音が流れ男は変身した過去に戦った最悪最凶の悪のライダーエターナルに!!

ダ（馬鹿な何でテメエが eternal メモリをあのメモリは確かにメモリブレイクして破壊したはずだ！）

？（新しく作り直したのですよかなりの時間がかかりましたがね！）

そう言いながらエターナルは襲い掛かって来た。するとアクセルとダブルはとっさに腕を出しそれを防ぐが、威力を殺しきれず吹き飛んでしまう、アクセル、がは！ダブルぐっ？

2人とも壁に叩きつけられ唸り声を出してしまい倒れてしまうとエターナルに変身した男が（おやおやもう終わりですか？、風都を救った仮面ライダーとはそんなものだったですか？嫌やはり少し歳をとり過ぎたとゆう事でしょうね。）

男の言うことは半分正解であった何せ風都救ったのは10数年前であり

照井と翔太郎はもう40後半を過ぎており体力的に変身に負担がかかっているのだ、フィリップは元データ人間だった副作用か肉体年齢は衰えず昔と変わらないのだった。

ここに来る前にマスカレードドーパントを何十体も倒してきながら来たので体力的に少し厳しいのである。

それに今日は照井の息子である優太の誕生日を祝ってやりたい為か少し焦っている。

竜は立ち上がり（うるさい!!? trial!!?）竜はtrialメモリを出しアクセルメモリと付け替えてベルトに差し込み変身し青のボディと超高速移動を得意とするトライアルに変身しそして、

竜（さあ振り切るぜ!!? trialmaximumdrive!!?）ガイアウイスパーがなり竜高速で謎の男に必殺技を叩き込む為に懐に入り蹴りを連発で入れそして（9.8秒それがお前の絶望までのタイムだ!!?）trialメモリをキャッチしそう告げた途端爆発を起こしたそれを見たダブルは（おお、今日いつも以上に気合いが入ってるな）と竜はフンと鼻を鳴らして言うだけであった。

さあ帰るぞ竜がそう告げた瞬間eternalmaximumdrive!!?、

竜（何?ぐああ!!?）エターナルのマキシマムをまともに喰らってしまいアクセルは吹っ飛ばされてしまい変身が強制解除してしまった。ダブルはとっさに照井の横に駆け寄り近づくと傷だらけになっており立ち上がる体力も無くなっていた。

そしてアクセルの技食らったエターナルは無傷であった。

ダ（無傷だと?そんな馬鹿な!）と叫んだが謎の男は、『当たり前です体力を消耗した

状態の技を食らっても私には傷一つ付けられませんよ。何せ eternal memory とのシンク率は100%を超えているのですから。何!!? ダブルは驚いていたシンク率が100%を超える者を見た事が無かったのだから。

謎の男『さああなた達もここで消えなさい eternal maximum drive !!?』 ダブル(っ) ダブルはまずいと思いエクストリームメモリ呼び変身しようとした時、? 『ボスもう時間です音ノ木坂に行かねばなりませんよ』おや? 時間切れですか残念ですが又会えた時に潰しますよでは

そう言い放ちエターナルともう一人の謎の男は消えていった

ダブル(待て!) ダブルはそうゆうがすでに姿は無かった

そして変身を解除し照井! と叫び近寄ったのである

しかし照井は大きなダメージを受けた拳句傷だらけになり気絶していた。翔(おい! 照井しっかりしろ待ってろすぐに病院に連れって行ってやる) といひ急いでリボルギヤリーを呼んだのであった

そして心の中でこう思った『亜樹子と優太に何って言えばいいんだ畜生! せっかく優太の誕生日を楽しく祝うはずだったのに!!?』

そう思い急いで照井を病院に連れて行くのだった。

そして必ずミュージアム neo の野望を潰して見せると心に誓うのであった。

ラブダブル〜プロローグ、アクセルを継ぐ少年始まり前編

完

プロローグ―アクセルを継ぐ少年の始まり後編

時は竜と翔太郎が廃墟で戦っている少し前にさかのぼる。

竜と翔太郎達が廃墟で戦闘をしている頃、照井家では優太の誕生日会の準備をしていた。

照井家では今誕生日会の為に飾り付けや料理を優太と亜樹子が準備している途中である。

ジューウウ家の中キッチンではいい香りと料理を作っている音が聞こえている。

優（母さんもうすぐ酢豚が出来るから、盛りつけ頼んでいいかな？）と言いながら優太はお鍋振りながら叫んで亜樹子を呼んだ、すると、、

亜（はぁーい分かったわ優くんあ！でも少しだけ待って飾り付けがもうすぐ終わるから）

すると優太は『分かったよ』と言いつつあえず酢豚が出来たらしく火を止めて母の所に行く、

すると優太は俺も手伝うよと言って飾り付けを手伝ったのである。飾り付けが終わった後。

亜樹子が『ゴメンね優くんの誕生日会なのに一緒に準備させて、』すると『良いよ大丈夫誕生日会をしてくれる母さんと父さんそして翔太郎さんフィリップさんのその思いだけで俺は嬉しいから気にしないで』と息子に言われ亜樹子は満面の笑みでそれなら良かったと言った。

今日優太は17歳の誕生日を迎えるのだがやはり年頃の男の子で誕生日を親に祝ってもらうのは少し恥ずかしいらしく照れ臭く頬をかいていた。

それに普段仕事で忙しく中々親子として接してあげられない竜は、今日は必ず早く帰ってお前の誕生日を皆で祝おうと言ってくれた、それだけでも優太は嬉しかったのだから。そんな話をしながら料理を2人出来た盛り付けてテーブルの上に置いて準備を整えたのであった。

後はあの2人が帰って来るだけであるフィリップは先に家に来ていたのだが寝ていて起きないのだ。

優太は相当仕事が忙しく寝ているだけかと思い、父と翔太郎さんが来るまで寝かせてあげようと思いタオルケットをかぶせてあげた。

だが優太はこの時フィリップは翔太郎と変身して意識が無い事を知らないのである。亜樹子は昔から3人を支えて来たので、事情をしている為今日は少し心配していた。

今日誕生日を迎える優太に過去にあった事を喋ると竜は言っていたので、無事帰って

来て誕生日を祝える事を願って待っているのであった。

そして優太と亜樹子は2人が帰って来るまで色々準備をして待っていた、

ふと亜樹子に電話が入る亜(はい照井です、あ!南ちやん久しぶりね元気だった?私?相変わらず元気だよ)どうしたの急に電話なんかかけて来て?)

電話をとるとどうやら幼馴染だったらしく、楽しく話していた。そんな母を見て優太は電話してる間TVをつけて見ていた。

そして亜樹子が電話をして30分程喋っていると少しだけ落ち込んでいた顔をしていた。

優太は母が珍しく落ち込んだ顔をしているのを見て不思議思った(普段はあんなに元気な母さんが落ち込むなんて珍しい)と思っていると、電話の最後に息子に頼んで見るといい電話切るのであった。ふと優太は何故俺に頼んで見ると?つと疑問に思った

すると亜樹子は(優太ちよつと大事話があるのいいかな?)

と言われ優太は少し驚いた普段優君としか言わない母が、真面目な顔をして優太と言ったのだからよほどの事なのだろう

優『うん分かったどうしたのそんな真剣顔をして?』母に尋ねると

亜『音ノ木坂学園にテスト生として音ノ木坂学園に行つて欲しいの』

すると少し間が空き優太はえ?と情け無い顔をしながらびつくりしたのである。

優（ちよつと待つてあの学園は確か女子校だったはずだよね？何故俺がその学園に？）優太は最も疑問を言い母に聞いた。

すると亜樹子は理由を説明するのであった。

それから少し時間が経ち説明を聞いた後、

優太は言った『つまり入学する人数が低下し来年以降は生徒を募集せず今の1年生が卒業するまではあると？んでそれを阻止する為に7人女の子が学園を続けてもらう為に今スクールアイドルとして頑張つており、それと案があつた共学の一時的な試験として俺にそこでテスト生をして欲しいと？』

あらかた事情を整理した優太はそう言い母に尋ねた

亜（うんあの学園は私の母校でもあるし今その理事長をしている人は私の幼馴染なのそこで、幼馴染の私と夫で警察官の竜君の子である優君にテスト生として来て欲しいんだつて、

駄目かな？確かにそこに行く事になったら今の高校を転校しないといかなくなるしそこで出来た友達とも会えなくなるし、

向こうは女子校だから男の子優君だけになつて辛いかもだけど私は母校が無くなつて欲しくないんだお願い出来ないかな？）そう告げ亜樹子は優太に聞いた。

優太少し悩んでいた確かにその学園にテスト生として行く事になれば今の高校の友

達と離れ離れになるうえに向こうは女子校、男の子が自分1人だけは少し辛いものがある。

だがここまで真剣に言つて来た母を始めて見る優太はかなり困つてしまった。

優（母さん少し考えさせてくれる？、考えて答えが出たらちやんと母さんには言うから）そう言つて母である亜樹子に伝えたすると亜樹子は分かつたと言つてくれた。

亜（せっかく優君の誕生日なのにこんな話してゴメンね）母が謝つてきた。

すると優太は（いいよ気にしないでそれだけ、母さんにはその学園が大事なのかが分かつたから無駄にしない様に考えて答えを出すよ。

そう言つてお互い笑つて他の話しをして2人を待つていたのであった。

それから時間が過ぎ夜の10時過ぎになつていた。

この時間になつてもまだあの2人が帰つて来ないので亜樹子は心配していた。

すると優太が（遅いね父さんと翔太郎さん）そう亜樹子に言つた、

すると亜樹子はいつも以上に嫌な予感を感じてか落ち着きがなかつた。

そんな母を見かねて優太はホットミルクを作つて亜樹子に渡した。亜樹子はあるがとうそう言つてホットミルク飲み少し落ち着いていた。亜樹子は思った（まさか竜君に大変な事がおきてるんじゃない？）そう思つていた同時刻竜はエターナルにやられ傷だらけになり翔太郎に担がれて病院に行つて最中だったのである。

そんな事思っていた時フィリップが急に目を覚まし2人を見てとても申し訳ない顔をして謝つて来た。

亜樹子は(どうしたの?、まさか竜君に何かあったの☒)そう言つてフィリップの肩を掴んで叫んだするとフィリップが照井竜が倒れてしまい病院に翔太郎が連れて行つていると言われ。

力無く座り込んでしまうそれを見て優太はとつさに母さんと叫び横に駆けつけて亜樹子を支えたすると何でと?言い泣いてる母を見て優太も辛くなり少しだけ涙を流した。軽く事情をフィリップが説明し急いで病院に向かったのであった。

そして病院について竜が治療を受けて寝ている部屋に行つた

その頃病院に翔太郎に担がれて行つた竜は、

病室、竜はエターナルのマキシマムを喰らい傷だらけにはなつたが病院に着き治療を受けた後直ぐに目を覚ました。さすがは風都を傷だらけになりながらも救つた仮面ライダーだ。

回復力が高い医者にもあり得ないと言われ驚かれた。すぐに意識を覚ました竜とは息子の誕生日を祝うと約束していると言ひ帰ろうとして、

医者に止められ傷の治りから見て2日は絶対安静と言われ入院させられ不機嫌な顔をしてベッドに横たわつていた、翔太郎が横にいてすまないと言つてきた。

竜は気にするな油断した俺が悪いと言いい互いは苦笑いしながら会話していた時、亜樹、優（竜くん（父さん）！）そう言つて2人は竜に抱き着きながら言つた、亜樹子は大泣きしながら竜君と何回呼び抱きついていたし。

優太も少し泣きそうな顔をして良かったと言いい手を握っていた。そんな2人を見て竜と翔太郎はせっかくの優太の誕生日をこんな大変な日にしてしまつてすまないと言つて来た。

亜樹子は昔から無茶をする事は分かつていたので、（次大怪我して心配させたらスリッパで頭しばくからねと！）と言いい優太は2人が無事ならそれで良かったと言つたのである、竜と翔太郎は苦笑いしながらありがとうと礼を言つた。

その後優太が何故そこまで大怪我をと言いい皆黙り込んでしまった。

少し沈黙が続いた後遅れてフィリップが到着しどうしたの？聞いて優太が何故父が大怪我したのかを聞いたのである。

するとフィリップはそうかまだ照井竜は君に話して無いのだね過去に何があつたのかを、、

優太は真つ先に頭に？が浮かんだ過去の事？確かに父さんが昔から警察官として生きてるのは知つているがそれ以外に何かあつたのか？

そう疑問を思つていたら父である竜が口を開いた俺から全て話す、そう言つてフィ

リップは一步下がったのであるそして過去にどんな出来事があり、

何故竜が大怪我してしまったのかを喋り出すのであった。

過去に風都とで起きた事件そして照井や翔太郎達が仮面ライダーとして風都救い平和をもたらした事、

そして最後にミュージアムの生き残り達が新しく作った組織neoが何をしようとしているかをすべて話した。

その話が終わった瞬間亜樹子はショックを受けた当然だ幼馴染がいる音ノ木坂でガイアメモリを使いましてやガイアインパクトをおこすと分かれば当然である。

その姿を見た竜は心配し理由尋ねると優太にその女子校のテスト生をして欲しいと理由を言つて頼んか事を竜にも話したのである。

すべての話を聞いて無言になった優太当然だ父親が風都を救った伝説のヒーローでありテスト生として頼まれていた場所にそんな奴らがとんでもない事をする事に驚かない訳が無かった、

だがふと優太は思った何故音ノ木坂なのか？それを尋ねるとフィリップが今度は答えてくれた。

星の本棚で調べたらしくどうやら音ノ木坂学園の地下にはガイアインパクトを起こす為のエネルギーが多く集まっているらしいだから学園の周りでメモリを使い事件を

おこして。生徒を募集出来ないようにして潰そうとしているらしい。それを聞いた瞬間病室にいる皆が怒りを覚えた。そんな事の為に母さんの母校をそしてその学校を無くさない為に頑張っている子たちを踏みにじる何てふざけるな!!? 優太心の中で怒りを燃やしてそう叫んだ。

それは警察官であり仮面ライダーアクセルである父照井竜の血をしつかり受け継いでいる証拠でもあった。そして優太は決意する、、、

優（母さん俺そのテスト生の件受けるよ！）すると周りにいた竜とフィリップ以外は驚いたそして翔太郎と亜樹子が口を揃えて言った（ダメだお前（優君）はまだ子供だそんな危険な事が分かった以上その件については反対だ!!?）

2人は頑として優太が最悪命を落としかねない様な出来事が起こるかもしれない所に行かせるのはどうしても認められなかった。

しかし優太も頑として2人に負けずと嫌だと言って叫ぶのであった。その時の思いを貫き通す姿は、

昔の照井竜にそっくりであった為一瞬亜樹子と翔太郎は怯んでしまう。

だが2人もダメだと言ひ話は纏まらないそんな時竜が口を開き優太に聞いた何故この話を聞いて尚行こうと思うんだ?と聞いた。

そして優太が出した答えは、

優（確かに下手をしたら大怪我だけでは済まないかも知れないけど、

音ノ木坂にそのガイアメモリが広まりドーパント達が暴れたらその町の人達が傷つき悲しむ人達がたくさん出てしまう、

それに学園を頑張つて継続してもらえる様に努力をしている音ノ木坂学園のスクールアイドルの子達の努力がそんな奴らのせいで潰されて悲しい思いをしてしまう俺はそんなの認めない！

例え父さん見たいに仮面ライダーに変身出来なくても俺は俺なりのやり方で何とかしてやるだから俺にテスト生とし音ノ木坂学園に行く事を認めて欲しい母さん！）

そう言つて竜の問いに答え母である亜樹子に覚悟はあると強い思いをぶつけたのである。その思いを聞いて竜は喜びの笑みを浮かべ（それがお前の覚悟か？）そう聞いた、そうだよ父さん!!？そう力強く返事をした優太。するとずっと黙っていたフィリップが少し笑いながら告げる。

フィリップ（やはり血は争えないね照井竜、君の息子は昔の君にそっくりであり、あきちゃんの頑固な性格もそのままだ。）そう言つて竜は笑みを見せながらああそうだと認めながら返事を返した。

亜樹子も翔太郎も優太の決意に負けたのか渋々了承したが翔太郎は俺も一瞬俺も行くと言いかけフィリップに止められる。

フィリップ（ダメだよ翔太郎あのフードかぶった男は僕達に復讐するためでもあると言った、だからこの街に奴らの使いが来たら風都守る人の数が減るからそれはダメだよ。）

翔太郎（そんな！優太をそのままneoの奴らと戦わせるのかよ！フィリップ）翔太郎は怒りながら叫んだがそれを竜が止め口を動かす。

竜（優太お前の覚悟しつかりと聞いたこれをお前に託すぞ！）そう言つて渡して来たのは、照井竜を仮面ライダーアクセルとし長年相棒を勤めていたアクセルメモリとアクセルドライバーであつた。

すると亜樹子と翔太郎は驚いたそして亜樹子が（竜君それは！どうして）自分の息子にドライバーとメモリを渡すと言う事はつまり優太が向こうの街でneoのドーパントたちと戦う為の力を渡すと言うことであり竜自身が仮面ライダーをやめると言う事を意味していた。

翔太郎も流石に驚いていたが何となく意味を理解した。

フィリップが亜樹子の為に説明をした（照井竜はもう昔の様にアクセルとして戦うのが難しいんだ、

理由は歳を重ね体力が少しずつ力に追いつかなくなっていたんだ、

それは翔太郎も同じであり肉体年齢が歳を取らない僕も少し厳しい所があるだから

今日はやられてしまったんだ）メモリはそれぞれの地球の記憶を秘めたものでありどれも強力であるいくら相性が良くても歳を重ねた竜や翔太郎達には少しずつだが長時間闘えなくなっていたのだ、それを理解していた竜は息子の決意を聞き優太にアクセルを継いだのだ。

それを聞いた亜樹子はため息をつき諦めた表情を言った

亜（分かったわ、優太のテスト生の件認めるは（母さん!!?）ただし絶対無理をしない事そして時々家に帰って来て元気な姿を見せて!!? それを守るなら私は止める事を諦めるしもう何も言わないわだって私と竜君の息子ですもの信じてあげなきゃね）

そう言いながら少し涙を浮かべている母を優太は一言ありがとう約束するよと告げたのである。

そして優太（父さん俺は音ノ木坂学園の子達や音ノ木坂の街の人達を絶対に守るよ!!
俺は母さんと父さんの息子として一緒に懸命にやってくる!）そう告げた

そして竜と亜樹子は口をそろえてこう告げたのである（頑張つて来い（おいで）優太
そして仮面ライダーアクセル!!?）

そうして優太は父から仮面ライダーアクセルを継ぎ熱い思いを胸に音ノ木坂学園のテスト生をする事を決めたのであった。

プロローグーアクセルを継ぐ少年の始まり後編く

完

第1話少年と少女達の最初の出会い

（前編）

優太がアクセルを継ぎ音ノ木坂を守ると決意をしたその日夜、母である亜樹子は幼馴染に電話をし手続きに必要な書類などを送って欲しいと連絡を入れたのである。すると今はオーブンキャンパスの準備で忙しい為、テスト生として来てもらうのはそのオーブンキャンパスが終わった次の月になったのであった。その間必要な書類を準備しながら、仮面ライダーとして学ぶ事をその一カ月翔太郎や父の竜に教わりながら準備をしていた。

そしてとある日の事、翔『どうした優太、もうへばってんのか？そんなんじやドーパントは倒せねえぞ！』

今は格闘術を翔太郎と修行している優太

優『大丈夫です!!？へばってなんかいませんよ、父さん見たいに強くなる為にそしてドーパントをたおす為にもっと強くなる！セイっ』

そう告げて優太は翔太郎に拳を向けて言った、それを翔太郎は受け止め逆に優太の腹部に拳を叩き込んだ（ぐっ!!？）優太は軽く唸り声をあげ吹っ飛んだのである。そこで翔太郎が、今日はここまでだと告げて稽古は終わった。

翔『やつぱり照井の子だな、すげえ速度で格闘術を体で覚えてきている、俺も危うくパンチをもらいかけたぜ優太』

笑みを浮かべながらそう言い優太に手を伸ばすと優太はその手を取り

優『いえ、まだまだですよ父から幼い頃から空手と剣道を教えてもらいずっと続けています、翔太郎さんや父さんには全然及びませんよ。』苦笑いを浮かべながら翔太郎の手を掴み立ち上がる優太するとそこに、、（優君（優太））と言いながら近寄って来る亜樹子と松葉杖をつきながら歩く竜の姿が見えた。

優『母さん、父さんどうしたの？』

優太はそう言って尋ねる

竜『いい動きだったぞ優太、だが正拳を打つ時のタイミングが少しずれていたもう一歩足を出して踏み込め。だがあの動きならマスカレードは普通に倒せる。まだ荒さが少しあるが合格だ優太』

そう言った竜に賛同する様に翔太郎もそうだなと言っていた。

それを聞いた優太は父と翔太郎に合格と言われ少し嬉しくなるがこれからも精進しますと言った。

すると今度は亜樹子が話しかけて来た。

亜『よかったね♪優君、後南ちゃんから連絡があつて手続きは全部終えたから来月の

初めから登校して欲しいと連絡があったよ』

そう言いながら笑みを浮かべた亜樹子であった。

優『わかったありがたいがとう母さん、じゃあ向こうでの生活をする為に色々買い物をするませないといけないね』

そう言う優太であった、向こうでは一人暮らしになる為すぐに亜樹子と竜はアパートを探してくれており、後は色々家具などを揃えるだけであったのだ。

竜『そうだな優太とりあえずは、汗を流して出かける支度をして来い。俺と所長は準備は出来ているから待つてる』

優『分つたよ父さん、汗を流して来るね』

そうして優太は稽古を終えシャワーを浴び身支度を整えて竜達と街にシヨツピングに出かけた。それから又何日か過ぎた日

風都駅前、そこには荷物を抱えて駅の改札口前に立っている、優太と父と母の竜、亜樹子そしてライダーの先輩でありこの1カ月稽古をつけてくれた。翔太郎がいてその後ろにあるハードボイルダーにもたれながらフィリップが立っていた。優太の新たな旅立ちの日に4人は見送りに来ていたのである。

優『父さん、母さん、ここまででいいよ。そして翔太郎さんフィリップさんはわざわざ見送りに来てくれてありがたいがとうございます。』

そう言う優太すると、4人から1人ずつ激励の言葉を贈るのであった
まずはフィリップが最初に喋った。

フ『優太新しい旅立ちおめでと、一緒に向こうで戦えないのが残念だが、もし困った事があれば迷わず電話をくれるかいその時は必ず君の所に駆けつけるよ。僕と翔太郎の弟子でありライダーとしては後輩だからね。』とフィリップが先に伝えた

優『ありがとフィリップさん困った事などが出来たら遠慮せず連絡をいれます!。』と優太言った、

そして次は翔太郎が、

翔『まあ最初に言いたい事はフィリップと同じだ、もし向こうで自分よりも強い敵に会い負けて挫けそうなつても心を折るなよ優太!、お前は俺とフィリップの弟子で照井の息子だどんな強大な敵にぶち当たっても勝てないと思ひ諦めるな、自分の本当に守りたいものを最後の最後まで守り通せ、その覚悟を強く持つて立ち向かえば絶対に負けねえよ。だから頑張れよ』そう翔太郎は手を差し伸べたその手を優太は握り返す。

優『はい翔太郎さんどんな強大な敵ぶち当たっても負けません!俺はその守る言うその強い意志を絶対に貫き通してneoをぶつ飛ばして来ます!』強くお互い手を握りに笑顔で笑う2人

すると横にいた亜樹子が、

亜『うーん私から余り無いかな翔君やフィリップ君達と思っている事は同じだからね、けど絶対無茶はしない事、それからもし辛い事があつて立ち止まってしまひそうな時は帰つておいで竜君達とその時は支えてあげるから、それと向こうは女子校だからね彼女ぐらい作つて紹介しなさいよ優君♪』そう言つて優太に抱き付く亜樹子

優『あはは母さんてば分つた絶対に無茶はしないし立ち止まってしまひそうになつたら母さん達に会いに行くよ。それと彼女をなんて期待しないで俺さう言う恋愛事は苦手だから』

と言ひ頬をかく優太すると亜樹子はええ〜と言つて、いい加減彼女の一人ぐらい作りなさいと言ひ伝家の宝刀スリッパで息子のあたまを叩きスパツツン〜と言ひ音を立てるのであつた。そんな優太と亜樹子のやり取りを見て竜、翔太郎、フィリップは、はははと笑つていたが竜が優太の前に立つた。

竜『優太俺からは一つ謝らせてくれ、今まで仕事が忙しくお前には父親として接してやる時間を余り取れず今まで寂し思いをさせて来たし、お前の決意を聞いてアクセルを託したが息子をこれから多くの危険がある所に行かせる俺を（父さん待つて）

すると優太は竜が謝らうとした時待つてといひストップさせた

優『確かに父さんは警察官としての仕事が忙しくて余り接してくれる事が無かつたけど俺は警察官としてそして仮面ライダーアクセルとして人々の為に一生懸命に守る為

に戦う父さんの背中を見て俺はそんな父さん見たいな男になりたい！って思うし尊敬してるだから謝らないでそれに俺はアクセルを継いだ事に後悔は無いよこの力で音ノ木坂の人達を守る力を父さんからもらった。だから気にし無いでいつもだったら振り切るぜって言う父さんは何処に言ったの？もしかして俺が向こうに行くから寂しいの？』そう笑みを浮かべながら言った優太

竜『そうかそうだったなお前は俺と所長の息子だ心配する事も無いな、だが今まで寂し思いをさせて来てすまなかった。これからお前が仮面ライダーアクセルだneoの奴らをぶっ飛ばして来い！それと俺にお前が音ノ木坂に行って寂しいかと質問したな優太そんな質問を、俺に（俺に）するな（するな！）（竜の口癖を優太も一緒にも言って（でしょ？）』と言い優太は（父さんはやっぱりこうでなきやね）笑った

そして二人は拳と拳を合わせて笑顔になるのだった。

するとホームのアナウンスがなる（間も無く音ノ木坂行きの電車が参りまあくす）と聞こえたので優太は改札を抜けたそして振り返り

優（父さん母さんそして翔太郎さんとフィリップさん行って来ます！）そう告げて拳を突き出して言った優太すると、

4人（行ってらっしゃい！）4人とも笑顔を見せてあげながら拳を突き出して言ったのだった。

こうして優太は故郷の風都を離れ音ノ木坂に向かうのであった
そして優太は音ノ木坂での新たな生活とテスト生して音ノ木坂学園のスクールアイ
ドルμsと出会い運命は加速する。

第1話少年と少女達の出会い 　　～前編～完

第1話少年と少女達の最初の出会い

～中編～

音ノ木坂に向かう為、風都をあとにした優太は、新しく住む場所とテスト生として転入する音ノ木坂学院での学園生活を楽しむ事として、neo達から音ノ木坂を守ると言う決意を固め音ノ木坂に向かう優太

そして風都から音ノ木坂行きの電車に乗って数時間後に音ノ木坂に到着したのであった。

音ノ木坂駅に着いた優太は改札口を通りとりあえず駅の外に出た優太

優（ふうくやつと音ノ木坂に着いたか、風都とは又別にいい場所だな人々は楽しいそうに生活しているのが分かるな、ここが俺の新しく住む場所か、色々な出会いがありそうで楽しみだ！）

二時間近く電車の中で座っていた優太は軽く身体を伸ばし少しほぐしながら駅の周りの人達を見てそう言った優太であった。

優（さてこれから新たに生活をする町だ色々見て回りながら新しい家に向かうか!!？

おおかた大きい荷物なんかは父さんと母さんがもう住む

場所に荷物を引っ越し会社に頼んで運んでもらっているから大丈夫だしなさせて行くか！。）

そうやって音ノ木坂の町の地図を見ながら町を周りながら自分の住む家に向かう優太　　そして少し歩いた所に大きなビルがありそこから自分と同じくらいの歳で白い制服を着た女の子が出て来てモニターを見てA—RISE（アライズ）よ！とはしやぎながらそのモニターごしの女の子3人を応援していた。　　するとそのA—RISE（アライズ）と言う名前を聞いて優太は、、

優（そうかここがUTX学院か、そしてあれが今一番人気のあるスクールアイドルA—RISE（アライズ）確かにあれだけの歌唱力とダンスパフォーマンスとてもいい動きだそれに3人の息も完全に合っている。それだけ努力をして来たんだろうな俺もダンスを踊ったり歌を唄うのは好きだが彼女達には遠く及ばないな、さてそろそろ他の場所を見て回るか。）

優太は音ノ木坂に来る前にスクールアイドルと言う活動を知らない為ネットなどで調べていたのである。今若者の間ではスクールアイドルと言うものは人気を集めているとネットで調べていたのであった。

優太は年頃の割に流行りには疎かった。何せ警察官で父である竜の背中を見て育った優太は必然的に父みたいな警察官になりたいと夢を持ち武術の稽古を父である竜や

翔太郎達に小さい頃か訓練つけてもらっていた優太はずっと武術の稽古に夢中であった為あまり同世代の子達と遊ぶ事をしなかった。

その時の流行っていた事などに興味を示さなかったのだった。それを見て亜樹子は中学生になってまだ間も無い頃に部活に入りいろんな子達と仲良くしなさいと言われてた事もあった。それを言われた優太は部活を始めたその部活が楽しかったのか優太は武術などの事以外にも好きな事を見つける努力をした。そのかいてもあつてか同世代の子達とも仲良くなり今ではそれなりに流行のある物に興味を持ったのであつた。

ちなみ優太がやっていた部活はダンス部である

昔に亜樹子に言われたことやネットで調べたスクールアイドルの事を思い出してか頬をかきながら言つたのである

優（もつと詳しく調べて勉強しておくか何せ、俺の通う事になる音ノ木坂学院にもスクールアイドルはいるからな確か名前はμ s（ミューズ）だったなその子達にも必ず会うしこれから起こるかもしれないドーパント事件から彼女達を守る為にそして、ここではまだ友達が居ないから友達になれる様に努力するか）

そう言つた優太である、もちろん自分の通う学院のスクールアイドルの名前だけは知つていなければと思ひ調べていたのである。

ちなみに優太はまだ7人の頃のμ sを調べただけなので絵里と希がメンバーに

入った事を知らない。

そんな事を思い出して心の中で友達になれたらと思いつながら次の場所に行くのであった。

次に優太が向かう場所とは

UITX学院の場所を離れ町を歩いてそれなりの時間がたち優太はある場所で足を止めた

優（へえーここが俺が新しく学園生活を送る音ノ木坂学院か、いい場所じゃないかとても廃校の危機にある学校とは思えないな。）

優太がそう言うて次に向かった場所は、音ノ木坂学院であった何故ここによつたかと言う理由はこの音ノ木坂の町に来る前に亜樹子から（南ちゃんからのお願いで向こうに着いたら家に行く前に学院によつて欲しいそうだよ、何か優君と会つて直接お礼を言いたいのと学院の説明をしたいんだって）と母の亜樹子にそう告げられた為学院に来たのであった。

優（さて入るとするか、おつとその前に警備員の方に尋ねてからだな）

学院に入ろうとした優太はまだこの生徒ではない為勝手に入るのはまずいと思ひ正門の前に立っている警備員に声をかけたのであった

優（すみませんここにテスト生と転入する事になっている照井優太と言います、ここ

の理事長に学院に立ち寄って欲しいと連絡を受けて来ました。理事長は今学院におられますか？)

そう警備員に尋ねた優太すると中年ぐらいの優しそうな顔をした警備員が、

警備員（ああ君がわざわざ風都から、テスト生としてこちらに来てくれる事になった照井くんだね？理事長からは連絡をもらっているよ。

理事長にいらつしやつたと連絡を入れるから少し待つてくれるかの？)

事情を予め知っていた警備員の人はそう告げた

優（はい分かりました）

優太はお礼を言つて待つ事にした。

そして待つ事10数分後、理事長に確認の電話をしていた警備員が優太の所に戻つて来た理事長は今理事長室に居て学院の中に入る許可を出してくれたと優太に言つたのであつた、そこで学院に入る為の許可証のカードを受け取り。警備員の方に理事長室の場所を教えてもらい入つて歩いて行くのであつた。

優（よく見ると結構広いんだな、それにもう下校時間なのか生徒が1人も居ないなまあその方が俺も助かる）

そう言つて学院の中を歩く優太が1人も生徒が居なくて助かると言つた理由は簡単だつた、まだこの生徒達は自分がテスト生としてくる事を知らないし、見られた

ら何故女子校に男がいるのか？と騒がれてしまうからである。そう思いながら歩いている途中学院の教師とはすれ違いざまに会ったので一言あいさつを交わしながら理事長室に向かうのであった。

そしてそんな事を軽く繰り返しながら歩いてみると、いつの間にか理事長室の前に着いた優太は理事長室のドアを軽く三回程ノックをした。

すると理事長室から

？（はいどなたかしら？）

女性の声が部屋の向こうから聞こえてきたのでとりあえず自分の名前を言った。

優（今回音ノ木坂学院に共学化実施案の為にテスト生として来た照井優太です。）

そう告げた優太すると中からどうぞ入って下さいと、返事が返って来たので失礼しますと言いつつ理事長室に入るのであった。

ドアを開け部屋の中に入ると奥の机で書類などに目を通している女性の姿が見えた。すると女性は優太の姿を見ると優しい笑みを浮かべて立ち上がり優太のいる所まで近寄り手を差し伸べながら話しかけて来た。

南（初めましてこの国立音ノ木坂学院の理事長をさせてもらっている南です。わざわざ風都から来てもらってテスト生の件を受けてここまで来てくれてありがとうございます。ま

す照井優太くん）

手を差し伸べられながらそう言われた優太は、自分も手を出し握手をしながら言った。

優（いえ自分の母が通いそして幼馴染である、南さん達が卒業した今でも大切に思っているこの学院を廃校にしたいくないという熱い思いを聞いたのでこの件を受けさせてもらいました。自分に来る事は少ないとは思いますがこの学院を廃校にしない為にテスト生として頑張らせてもらいます！）

すると理事長は、

南（そう言ってもらえて嬉しいですよ、あなたのお母さんに頼んだのは正解でした。それにしてもあれですね優太君はあきちゃんよりお父さんである竜君にそっくりだね、この部屋に入って来たのを見た時は少し驚きましたよ）

そう言った理事長であった、すると優太は照れ臭くなったのか顔を少し赤くするのであった。

そんなやりとりをした後今この学院がおかれている状況とこの学院での規則の事を軽く説明してもらった優太

優（つまり簡単にまとめ事を言わせてもらうと、今回のオープンキャンパスで、sがライブを成功させてた事もあってそれに興味を示してくれた方達が多くいた為廃校の件はとりあえず落ち着いたと言う事ですね？）　　そう尋ねた優太すると理事長は

南（はい簡単に言うそうですね。ですが他にもまだ色々問題などもありますし安心は出来ませんが、廃校にしない為に頑張ってくれている子達がいるので私も出来る事から頑張っているの、だからこんな大変な時にわざわざ来てくれたあなたにも感謝しています。大変でしょうけど楽しい学園生活をおくってもらえたら嬉しいわ）

理事長はそう告げた後いつから登校するかの話をした

優（明日明後日は、部屋の掃除や荷物整理などをしたので明々後日行こうからなら登校するのに問題は無いです。それと制服はどうしたらいいでしょう？この制服はさすがに着て来れませんからね）

優太は引越し先の部屋の掃除や荷物の整理をしないといけない為明日登校するのは少し無理があったそれと制服に関しては着てこれないのは当たり前である何せ音ノ木坂学院は元々女子校なのでテスト生で男である優太が女子校の制服を着ていくなどすぐに変態扱いされる挙句、警察官をしている父親の竜に逮捕され兼ねないのである。

そんな事を聞かれた理事長は優太最後に質問してきた事にクスと笑って言って来た

南（登校するのはあなたの家の荷物の整理などが落ち着いてからで全然大丈夫ですよ。それとあなたの制服は今作ってもらっている最中なのでその制服が学院に届くまでは、私服で構いませんよ。それにあなたが女の子の制服を着て登校するのはかわいそうですね） そう言いながら笑っていた理事長であった

そんな事を言つて話をしていた後も色々な話をしていた優太、自分の住む部屋の整理をしなければいけないので、そろそろ行きますと言いもう一度これからよろしくお願いしますと一言だけ言つた後理事長室を出ようとしたりした時、

南（あ！待つて実は私の娘もこの学院の生徒で貴方と年齢は一緒だからもしあつたら仲良くしてあげてね♪、すごく優しい子だから）

そう理事長は言つた後優太（はい分かりましたお会い出来たら声をかけてみますよ）
と言い理事長を後にしたのでした。

優太が出た直後の理事長室で、

南（ふふ♪本当にあきちゃんと言君の子見た目は竜君みたいに冷静な感じの子だけど、どこかあきちゃんが元々持つている純粋な優しい心を持った子だったわ、本当に良い息子さんに育つたわねあきちゃん）

そう理事長は過去に青春の学生生活を共におつた亜樹子との事を思い出しながら優しい笑みを浮かべて窓の夕陽を見つめるのであった。

理事長室を後にした優太は正門前にいた警備員に許可証のカードを返し一言お礼を述べて学院を後にした、

その頃ある場所の廃墟、

薄暗い廃墟にフードをかぶつた者達が何かをしていた

？（ボスどうやら音ノ木坂学院の廃校の件は一旦白紙に戻った上に仮面ライダーアクセルがこの町に来たようです。）

白いフードをかぶった男がボスと声をかけた男に言った。

ボ（そうですか学院はオープンキャンパスを成功させてしまったのですか、あの学院が廃校にしなければガイアインパクトを実行する時期が大幅に遅くなってしまうね。

やはりあの学院のスクールアイドル μ 、 s が支えになっっているのでしょうか、頑張っているその子達には悪いですが消えてもらわないといけませんね、まあそんな事をさせないと思えばアクセルは来たのでしようがしよせんは無駄な足掻きです。近いうちに刺客を送り μ 、 s の子達には消えてもらわないと行けませんね。マグマその勤めを最初にお前へ任せますよ）

ボスと言われている男はそういつて暗闇から出てきたもう1人の男に言った。

マ（はいボス必ずや μ 、 s の者達を消しアクセルを倒して見せましょう）

ガイアメモリを受け取りボスからマグマと言う称号をもらった私の誇りにかけて！）

マグマと名乗る男は自分のボスにドス黒い笑みを浮かべながら誓ったのだった

ボ（そうですかでは楽しみにしていますよマグマ）

マグマ（はっ！）

マグマは短く返事をしマスカレード達を数人引きつれて暗闇の中に消えて行くのであった

ボ（さあアクセルこの町と学院とそして、sの皆さん達を守ると言うなら守ってみなさい私は高みの見物とさせてもらいますよ、）

そう言つてボスと言われている男は高らかに声を出して笑うのであった。

別の場所でそんなやり取りをしている事を知らない優太は音ノ木坂学院を後にしてすぐに町をまた歩いて回っていたが一つ困った事が起きたのであった、

優（しまった、のんびり町を見て歩いていたら知らないうちに迷ってしまったなんてどうしたもんかな）

優太は色々町の中を見て回っているうちに迷子になってしまっていた、そして今迷子になって足止めた場所は、

優（えつとなになにに神田明神、神社かここにはたぶん巫女さんか誰かが居るだろし階段を上がつてみるか）

そう言つて優太は、人が居ると思ひ神田明神に行く階段走つて駆け上がり上まで上がったのであった、すると神社の近くに自分と同じ年ぐらいの女の子3人が話をしている所を見つけたのであった。

優（よかった人が居たよ良く見ると俺と年は同じぐらいの女の子だなとりあえず声を

かけて道を尋ねてみるか、)

そう言いながら優太はその3人の前に行くのであった。

優太が神田明神に階段を上がって来る少し前

神田明神前、そこには3人の女の子がいた1人はオレンジ色の髪でサイドテールにしていてとても元気そうな女の子、綺麗な黒色の髪が特徴でいかにも大和撫子と思わせる雰囲気のある落ち着きのある女の子、そして最後にページュ色の髪で少し変わったサイドテールをしていて見た目が優しいそうな女の子の3人が仲良く話していた。

そしてこの3人こそが学院を廃校にしたくなと言う思いスクールアイドルをして何とかしよした子達であり、sの最初のメンバーであり2年生組で、μ、sのリーダーである高坂 穂乃果、歌詞を担当している園田 海未、そしてμ、sの衣装担当である南 ことりの3人であった

ほ(オーブンキャンパスでのライブ大成功だったね、海未ちゃん！ことりちゃん！) 満面の笑み浮かべながら穂乃果は軽くダンスの振り付けをしながら言った穂乃果
すると

う(そうですね絵里先輩と希先輩が入ってくれたおかげでもありますし

これからも頑張ってくださいませ！穂乃果、ことり)

海未もオーブンキャンパスで披露した曲が見学をしに来てくれた子達に良い印象与

えた事を感じていたのかいつも以上に喜んでいたのである。

こ（うん♪やつと9人そろったんだから皆んなで頑張つて行こうね、穂乃果ちゃん海未ちゃん♪）

ことりも3人で頑張つて来た努力がこうやつて結果を出した事に喜びを感じていた。

お互いの今感じている喜びを楽しく話してあつていた姿を近寄つて行きそれに気付いた優太は少し気まずい思いをしていた

あんなに喜んでいる子達に道を聞くのが少し申し訳なく思いを道を聞こうか悩んで近寄るのを止めた優太すると穂乃果が先に優太に気付きことりと海未に話しかけたのであつた。

ほ（ねえねえくうみちちゃんことりちゃんあそこにいる男の子見た事ある？何か私達に用があるみたいな感じだけど？）

すると海未は

う（いえ初めて見ましたもしや不審者では？）

自分と同じぐらいの男の子が少し向こうにいるが見た事も無い人だと分かり不審者ではと言つてしまう。

当然である海未は家の育ちもあつて見知らぬ人を直ぐに信用する方がどうかしているだろう。優太を見た瞬間見た事も無いうえにこちらを見ているので不審者だと思

警戒した。

すると横にいたことりが

こ（ううくんたぶん私は違うと思うなだつて見てよ海未ちゃんあの子手に地図を持つてるよそれに何かすぐく私達に話しかけるのを遠慮してる感じだし）

ことりは優太が思ってる事を何となく分かったらしく不審者では無いと言つてくれていたのであった。

そんなやり取りをしているのが丸聞こえであつた優太は不審者扱いされるのはたまつたものでは無いと思ひ声をかけるのだった

優（すまない道に迷つてしまひこの神社まで階段を上がつて来てら君達がたまたま居たのだが余りにも楽しそうに話していたので声をかけづらかつたんだ。）

自分が道に迷ひ何故穂乃果達に声をかけられるずに突つ立ていたのかの理由を正直に話した優太すると先に穂乃果が声をかけて来た

ほ（あははくそうだったんですか）海未が不審者と言つていた事が聞こえた事も聞かれていたので苦笑いをしながら答える穂乃果すると次は海未が口を開いた

う（そうでしたか、もしわけありません理由を知らないとは言え不審者かも知れないなど言つてしまひ）

海未はそう言つた時優太は

優（いやこちらこそ誤解される様な行動をとって君達にめいわくをかけたすまない）

優太は深く頭を下げ謝つたのだつた

すると海未はこちらでも貴方を不審者と聞こえる様に言つて不愉快な思いをさせてしまひもしわけありませんと言ひ、お互いはまだ名前を知らないもの同士だがお互いが嫌な思いをさせたと言つた2人である。

そんなやり取りを見てことりとほのかは、お互い名前を知らないはずなのに何にか似てる所があるよねと苦笑いしながら話していた。

そして海未とその少年がお互い謝りあつてゐるのを止めさせことりは言つた、

こ（海未ちゃんそのぐらいにしてその男の子は道を聞いて来たんだから地図を見せてもらつて分かる場所なら教えてあげようよ）

優太はそう言つて来てくれた子に感謝して地図を3人に見せた

優（ここに行きたいんだけど分かるかな？）

3人に自分がこれから住む場所が載つてある地図を見てもらうと3人は口を揃えて分かりますよと言ひ行き方を教えてるもらつたのである

優（すまないありがとうこの町に引越して来たばかりで町を色々見て回つていたら迷つてしまつたんだ）

自分がこことは違う町から来たと言ひと穂乃果が尋ねきた

ほ（やつぱりそうだったんだく普段見かけない子だなあ〜って思ってたんだ何処から来たの？）

優太は自分が何処から来たのかを穂乃果に聞かれてたの風都という町から来たと話したすると穂乃果を除いて海未とことりは驚いていた

う（風都からですかあの町は、とても良い風が吹く場所だと聞いた事があります）

海未は風都の事を話すこととりもそう聞いた事があるよと言っていた、するとことりは優太にある質問をして来た

こ（君はどうして風都からこの町に引越して来たの？風都見たいな良いところは余り無い町だけ？）

そう言ったことりに海未はそうですねと言い穂乃果はそうかなあ〜と Saying いたそこで優太は、

優（訳あってここで生活する事になったから引越して来たんだ、だからこのこの近くの高校に通うつもりだ。後君達はここが風都違い余り良いと頃は無いと言っていたがそんな事は無いよ）

そう言つてこの町の人達はとても親切だし何よりこんな良い神社などがあるだろうと言つてあげたのである。

そんな事を名前の知らない少年ましてや今日この町に来たばかりの者にそこまで言

われた3人は喜んでいたのであった。

それから少しだけ話しをしていたら、お互い歳は同じだと分かり優太は自分と同じ歳の子と出会えた事に少しだけ喜びを感じていた。

それから又少し時間が経ち周りも少し暗くなつて来たのでそろそろお互いの家に帰ろうと言いわかれようとした時、穂乃果が

ほ（待つて！ここで会つたのも何か偶然じゃない様な気がするだゝ

だから名前を教えてよー！）

穂乃果は心がそうした方が良いと思つたので名前を知らない少年と又会える様な気がしたので名前聞いたすると海未が

う（ほのか！今日初めて会つて道を聞かれただけの方ですよいきなり名前を教えて欲しいとは失礼ですよ）

いつもいきなり行動をおこすほのかをずっと見て来た海未は注意したのだが心の中では珍しく名前を知らないとは言え男の子と話していた時、何故か不思議にこの子は大丈夫だと感じていたのであつたが、それでもいきなり名前を教えて欲しいと言つた穂乃果に少し呆れて溜息をついた。

するとことりはあはは〜と言いながら

こ（うみちゃん良いんじゃないかな？何でか分からないけどあの男の子とは又必ず会

える気がするんだくうみちゃんもそれは何となく思ってるでしょ？ それにああなつたほのかちゃんも止まらないし、)

そう言ったことりの事を見た海未はそうですが少し恥ずかしいのですよ！と男の子に名前を聞くのはと少し顔を赤くして言ったのだった。

何せ海未は恥ずかしがり屋なので女の子ならともかく男の子に名前を聞くは少し無理なのである。

そんな事やり取りを見ていた優太は、

優（じゃあ君達の名前を先に教えてくれるかな？、人に名前を聞く時はまず自分からと言うからね）　優太は優しい笑み浮かべながら言ったすると3人はその優しい笑みを浮かべ少年を見て少し照れてしまい顔を赤くしてながらあたふたしていた。

優太は、大丈夫か？と尋ねたは3人とも大丈夫ですと。

そんなやりとりをしていたが優太の立っている場所に少しだけ近寄り、1人ずつ自己紹介をした

ほ（初めましてだね！私　高坂　穂乃果！音ノ木坂学院二年生よろしくね）、そ
う言つてほのかは優太の手をとりブンブンふるのだった

う（ほのかそのくらいにしなさいでは次は私ですね、わ、私の名前は、そ、そ、園田海未と申しますほのかとは同級生で幼馴染ですよ、よろしくお、お願いします！（ボ

ン)

次に名前を教えたのは海未だった、やはり同世代の男の子に名前を教えるのが恥ずかしかつたのか名前を言い終えた直後顔を真っ赤に染めてショートしてしまった。

そんな海未を見て穂乃果とことりはやっぱりかと苦笑いをして優太に気にしないで恥ずかしがり屋さんだからと言われ納得したのであった。

次は私ですわねと何故か最後にですわと言った時音符マークが見えた優太は目をこすって確認したが気のせいだろうと心にそう言い聞かせた。

こ（初めまして南　ことりと言います♪ほのかちゃんうみちゃんと同じ学校でむかしからの幼馴染です♪）

見る人全てを癒してしまいそうな笑みを浮かべたことり、それを見て優太も一瞬情けない顔をしかけたのを思い留まらせ何とかしたのであった。

そして3人の自己紹介を聞いた優太は音ノ木坂学院の生徒だとは思っていなかったが少し焦っていた、例えテスト生として転入する事がまだ生徒の皆に伝わっていないのだがまさかこんな所でその学校の生徒であり、sの二年生組の3人に偶然ではあるが会ってしまったのだから。

優太はまだ自分がテスト生だと言う事を知られては無い事は分かっていたが名前を

教える事を悩んでしまった、だが自分からではなく向こうに先に名前を教えて欲しいと言ったのは他でも優太なのである。

すると意を決したのか優太は名前を教えてた

優（仕方ない自分が招いた事だ、初めまして照井優太だ、君達と学年は同じだ。風都からある事情があつてこの町に引っ越して来た、もし何処かで会う事があれば仲良くして欲しい）

そう言つて手を出して二年生組の3人と握手を交わした、それから少しだけ話しをし教えてもらった場所を見ながら家に向かう優太であつた

するとほのかは（照井君く又町の何処かで会えたら声をかけてねー）

と笑顔で手を振つて優太に言うのであつた。

優（分かつた、だが近い内に君達とは又すぐに会う事になるその時はよろしく頼む）
穂海こ（え？それってどう言う意味（です？）（なの？））

3人はその言葉に疑問をもつたので優太に聞いたすると（近い内に俺の言つた意味が分かる）と告げて階段を降りて行くのであつた。

優太が神社から居なくなつた後二年生組の3人はどう言う事何だろ？と話しをしていたがもう暗くなつていたのでそのまま3人で家に帰るのであつた。

その後に優太も教えてもらった道を辿り無事に家に着き寝る場所を確保して横にな

るのであったそして、たまたま次の日は休日である土曜だった

土曜の間で荷物の整理などを終わらしていた優太は月曜からテスト生として通う為に準備をしている最中である

優（ふう〜とりあえず理事長には荷物整理が終わり月曜から登校するとは伝えたいは次の日に備えて寝るだけだ、父さん母さんいよいよ明日から俺の新しい学園生活が始まりまだ動きは無いがneoとの戦いが待つてるだろう。絶対に俺がこの町を守ってみせる！）

そう言うって優太は強い意志を再確認して明日にそなえて眠るのであった。

こうして優太は音ノ木坂での生活をスタートさせたそして物語は新たに学園生活を
送る音ノ木坂学院での登校から物語は又進む

第1話少年と少女達の出会う　　〜中編〜　　完

第1話少年と少女達の最初の出会い　　（後編）

優太が音ノ木坂に到着し色々見て回ったり、μsの二年生組との初めて出会って色々あった日から　二日後の月曜日

土日の間に荷物の整理を全て終わらせて今日から新しい学園生活を迎える優太は朝を早く起きていた。　ちなみに起きた時間は朝の5時である

優（さてこれで今日持つていくお昼の弁当は出来たな後は、朝ごはんを作つて食べるだけだ、よし！ベーコンエッグでも作るか）

今日から新しい学園生活が始まるので普段は母親の亜樹子に弁当を作つてもらつていたが今は、一人暮らしなので自分で弁当を作つていたのである。

朝ごはんを作り終えた優太は朝食をとり食器などを片付けた後、顔を洗い身支度を済ませていたのであった。

優（さてまだ俺の制服は無いらしいから私服でいいと言つていたな、

良しなら父さんと母さんからこの町に来る前に渡してもらつたあの服を着ていくか！）

そう言つて優太が着た服とは、

優（よし！これでバッチリだ自分で言うのもアレだけど、

うしろ髪を切ったら本当に昔の父さんにそっくりって言われるな）

そう言いながら優太は鏡を見て服装の確認をして準備を済ませたのであった。

今優太が着ている服装は若い頃に竜が着ていた赤いレザージャケットであったなんでも、竜（お前の誕生日プレゼントとして昔着ていた物を新しく作

り直してもらった物だ受けとてくれ）

言われプレゼントされたもので喜んで受け取ったのであった。ちなみに竜が肌身離さず付けていた妹からもらったネックレスをお守りとして持つて行けといい渡されたので髪の毛が長いのを除くと本当に父親の竜にそっくりなのである。

そう事を思い出しながら優太は学院に行く準備を済ませたのである。

優（さて少し早めに来て欲しいと言われたからな行くか！、おっとその前にこいつも持つて行くっておくかいつ奴らが襲って来るか分からないしな、）

優太はそう言いながらアクセルメモリをジャケットの内ポケットにしまいベルトを鞆の中に隠したのであった。そして優太は自分の部屋を出て学院に向かった、

その頃優太が家をでた後神木明神では

天気が良く朝日がのぼり日が出て来たころ神木明神の長い階段を駆け上がりトレーニングをしている9人の女の子達がいた、

う（はい皆さんお疲れ様です5分休憩を入れた後にラスト一本階段を走りますよ！）

朝練をしていたのは、sのメンバー達であった。ラブライブに出場する為にダンスの練習と体力トレーニングを頑張っている途中であった。

階段ダッシュを走り終えた直後に海未に5分間休憩をした後最後の階段ダッシュをしますと8人に言ったのであった。

すると残りの8人は、少し疲れてはいるがはい！という返事をして体を休めるのであった。

ほ（ふえーやつぱり朝練きついね〜 ことりちゃん〜そのタオルとつてえ〜）まず最初に口を開いたのは、sリーダー穂乃果であった。

するとことりは、

こ（はあーいちよつと待ってねほのかちゃん）と相変わらずみんなを癒してくれる脳トロボイスを出しながら言った。

すると海未が（ほのか！だらしが無いですよことりも疲れているのですからタオルぐらい自分で取りなさい！）後ラブライブに出場を目指すならこれぐらいでばてても

らつては困りますよ）

と言いながら海未は穂乃果に説教をしながら言った、ほのかは（う〜うみちゃんのけちタオルとつて貰うぐらい、いいじゃん！）と言われた海未は（いいえ私はけちななどで

はありません！）と言いつつも通り言い合いを始めるのだった

そんな2人をどうしようかとおろおろしながら困っていることりであった。

そんな3人を見ていた他のメンバーは、

花（あ、相変わらず仲のいい3人だね凜ちゃん）

少し引つ込み事案な感じの女の子が隣にいるオレンジ色の髪をしてシヨートヘアの女の子に凜ちゃんといひ話しかけた。

？（そうだねかよちんくでも凜とかよちんとまきちゃんの方がもつと仲良しだにや〜ぎゆう〜つてするにや〜♪）

凜と言われたいかにも活発そうで語尾ににや〜と言う女の子は横にいる赤髪の女の子とかよちんと呼んだ女の子に抱きついたのであった。

すると赤髪の女の子はヴェエと驚き、少し照れながら抱きついて来た子を離そうした。

？（ちよつとイミワカンナイ!!？なんでそこで抱きついて来るのよ！暑いから離れなさいよ凜）

赤髪の女の子は余り嫌がるそぶりを見せないが離れなさいと言うが凜と呼ばれた女の子は（嫌だにや）といひ笑顔で言うであつた。

ほのか達のやり取りを見て自分達はもつと仲良しと言ってにぎやかにしていたので

あった

ではその一年生3人の紹介をしよう

まず最初にかよちんと言われた女の子、

名前は小泉 花陽 少し臆病で遠慮しがちな性格だがアイドル好きでアイドルの話になると性格が変わる女の子である。ちなみに口癖みたいな台詞は(ダレカタスケテ)である

そして次に語尾ににやと付けて話す女の子は

名前は星空 凜 花陽とは小学校の頃から幼馴染である体を動かす事が大好きで、sの中では一番の運動神経を持つ女の子で最後ににやと付ける独特な喋り方をする子である。ちなみに凜はラーメンが大好きである。(凜はラーメンが大好きにや)声が聞こえる 天の声(あ、はいそ、そうですか) 何故か天の声が聞こえたのかラーメンが大好きと言う凜であった。

すると赤髪の女の子と花陽が(誰に話しかけてるのよ(の))と言われたが凜は(よく分からないけど誰が凜の好きな食べ物と言ってた気がしたにや)と返事を返した。次にいかにもクールな感じの赤髪の女の子は、

西木野 真姫 音ノ木坂学院では成績優秀な女の子音楽が好きでよく音楽室のピアノを弾いている。凜と花陽は花陽を、sに入れる時にほのか達に入れてあげて欲

しいと頼みに行った際自分と凜も誘われ、sに入ったそのあとから2人と友達になつた。

ちなみに真姫はツンデレである為、ま（誰がツンデレよ！） 天の声（す、すいません（・・・）） 天の声（これ以上言うとか余計に怒られてしまいそうなのでここまでで、あ！あと、sの曲の作曲は真姫がしているのである。

凜とどうよに何処からいらぬ一言を言う声が聞こえた気がしたので誰がツンデレよ！と叫んだ真姫であつた。

そうして2年生組みを見て自分達もと凜に巻き込まれてあーだこーだ言う2人と笑顔でにやりとしい2人に頬を擦り付けている凜であつた。

そんな事をしている6人を見ていた三年生組みは、

？（あの子達いつも思うけど本当に元気よね。本当にスクールアイドルとしての自覚があるのかしら？）

背が低くピンクのリボンでツインテールにしている女の子が少し口を尖らせながら言うであつた。それを横に紫色の髪をした子と金髪で容姿端麗な子の2人がその子に声をかけた

？（まあまあにこつち、いいやんかこうやつて9人揃って練習をしてるんやし、それに今はこう言った事も大事やとうちは思うんよ）

？（そうね希の言う通りだわ、こうやって9人になったんだから、こんな事があつてもいいんじゃない？　まあこの前まであの子達に冷たくしてしまつて対立していた私が言えたものでは無いのだけど、）

金髪のがそう言うのと2人は（もういいじゃない（やん））　そう言つて金髪の子に告げた。

紫色の髪をした子が（今はこうして9人で楽しく出来てるんやしもう、エリチもそんな事は言つたらあかんよみんな分かつてくれたんやからね）

するともう1人のツインテールの子も（そう前は色々あつたけどもういいじゃない、これからはこの9人で頑張つて行きましよう絵里）

2人にそう言われた絵里と言う名前の子は（ふふありがとう希、にこ）と言つて笑つていた。

では次にこの三年生の3人の紹介をしよう、

まず背が低くピンクのリボンでツインテールをしている子は

矢澤　にこ　音ノ木坂学院のアイドル研究部の部長であり三年生、オシャレをする事やアイドルが大好きであり将来アイドルになると言う大きな夢を持つ、その為キヤラ作りをしているが初めてあつたほのか達は少し引かれていた事も、いつもにっこにっこにーと言いがポーズを取る。にこ（貴方も一緒ににっこにっこにっこ）　天の

ちなみに絵里はロシア人の祖母を持つクォーターであり容姿端麗な美人でありスタイル抜群な女の子である

これが二年生組以外の μ sのメンバーである、なんだかんだで楽しく練習を休憩していた9人、そして時間優太が家を出て少し経った頃にもどる。

丁度家を速く出て街を歩いてきた優太は学院に行く為歩いていたが μ sのメンバー達が練習している神田明神で足を止めたのだった

優(神田明神かここで俺が通う学院の生徒で μ sのメンバーである 高坂、園田、南に初めて会い道を教えてもらった場所かここに足が止まったのは何故だろうな?)

優太はそう言い足を止めたのだ何故だか分からないまま、

優(まあー 丁度いいこれからの学園生活が楽しくなる様にと無事にneoの奴らからこの街を守る様にお参りをしてから行くか!!? 時間もまだあるしな)

そう言った優太は神田明神に上がる階段を走って駆け上がるのであった。

丁度その頃 μ sのメンバーは練習を終えてストレッチをして学校に行く支度をしていた。

すると穂乃果が、

ほ(ねえねえことりちゃん、今日うちの学院に転校生が来るって本当?)

そうことりに聞いた穂乃果することりは

こ（うん♪お母さんが今日の全校朝礼の時に転校生を紹介するって言ってたよ）
ほのかに質問をされたことりは理事長である母には転校生が今日から来ると話していた。

う（転校生ですか？この時期に学院に転入して来るとは珍しいですね）

海未がそう言うところりは（何でも私とほのかちゃん海未ちゃんのお母さんとの同級生の子何だつて〜）と言うもちろん理事長も娘のことりは男である優太がテスト生として転校生する事は伝えてはいないが転校生が来るは伝えたのであった。

すると穂乃果と海未は自分達の母親と同級生の子が来ると聞き驚いていた。
すると一年生組みがことりに質問して来た。

花（ことり先輩どんな子が来るとかわき、聞かなかつたんですか？）

凜（ああそれは凜も気になるにや〜どんな子何ですかにや？）

真（ふうーん転校生ねえ、私はあんまり興味無いわ）

真姫を除いて2人は転校生がどんな子なのか気になつたらしくことり聞いて来た。

こ（うんとですなえーお母さんにどんな子なのか聞いたら見た目はとても冷静な子で心は凄く優しい人なんだつて〜）

そう質問に答えてあげたことりすると凜と花陽は（早くその転校生に会って見たいで

す！（にや！）と言い興味を示していた。

すると三年生組みは、

絵（でもオープンキャンパスが終わってすぐだなんて凄く急よね。私や希も理事長に知らされたのも三日前の金曜だったわ）

丁度その時の金曜は優太が音ノ坂に引越して来た時だが、優太が学院による少しずつ前に知らされてから帰ったのではち合わせにはならなかったのである。

希（そうやねこんな変な時期に転校生が来るのわちよつと急やけど、その子が学院に来るのは運命なんやとちは思うんよカードもそう言ってる見たいやし）

絵里に金曜に言われた事に同意した後何処から出したのかタロットカードを一枚手に持ちながら、学院に新しい生徒が転入して来るのは運命なんだと言う希であった。

横に立っていたには、

に（そうなのまあ希がその転校生が来るのは運命って言ったけど、どんな意味でなの？ 希の占いはほとんど当たるからそこが気になるわ）

希（分からねん、けどウチら μ sのメンバーにはいい出会い見たいやで）

そう言つてにこに説明した希であった。すると穂乃果が、

ほ（転校生かあー友達になれたら嬉しいなあ）

そんなことを言うほのかに対して海未は（もうそろそろ学校に行きますよ）とほのか

に言った。するとほのかは（待ってえ〜）といいみんなの所に走って行きみんなを追い越して階段の所まで走って行った。

するとみんなが（そんなに走って行くともし人が上がって来たら危ないと言うがほのかは（大丈夫だよ〜）と言い走って行ったがその時

階段の前で軽くターンを決めようとした時うつかりバランスを崩してしまい階段から落ちかけて居た、

落ちそうになっているほのかに先に気付いた海未とことりは危ない！と叫びながらほのかに手を伸ばすが少し距離遠い為間に合わない！

ほのかは自分が階段から落ちそうになり海未とことりが手を伸ばしてくれるも間に合わないと分かってしまいもう駄目だと思いい目を閉じた

だが目を閉じて数秒後いつまで経っても、落ちる気配を感じ無い穂乃果はおかしいと思いい目を開ける。するとそこには自分を抱き抱えてくれている男の子が目映ったのであった

穂乃果が階段から落ちる少し前に遡る

丁度μ sのメンバー達が話しながら階段の所に向かっている頃優太は階段を駆け上がって居た。

優（よし！もうすぐ神田明神だな

ん？上の方から声がするなこの声は前に道を教

えてくれた高坂、園田、南かそれとあと何人か居るみたいだな)

そんなことを言いながら階段を駆け上がって行く優太その話し声が聞こえて来て数秒後に危ない!と言う叫び声が聞こえた為すぐに上を見た優太すると階段から足を滑らせたのか穂乃果が階段から落ちそうになつていいる穂乃果が見えた。

それを見た優太

優(まづい!!?)

階段から落ちかけている穂乃果を見て階段を駆け上がる速度を高めた!

優(この距離なら何とか間に合うか? いや! 絶対に間に合わせる振り切るぜ!)

優太は絶対に間に合わせると言いはのかの所まで駆け上がるそして滑り込んでギリギリのかを受け止めてあげたのであった。

すると穂乃果は自分がいつまで経つても落ちてい無い為目を開くのであったそれに気付いた優太は

優(ふうく何とか間に合ったな大丈夫か? 高坂)

すると穂乃果は自分が助けられた事に気付いたらしく顔を赤くしてこう言ってきた。

ほ(だ、誰だか知りませんが、ありがとうございます あのも、もう大丈夫なので降ろしてもらってもいいですか?)

そう言われた優太は穂乃果を降ろしてあげたすると

8人（穂乃果（ちゃん）（先輩）！）　上に居た8人は急いで優太に降ろしてもらった穂乃果の前に行くのであつたすると海未とことりは少し涙を流しながら穂乃果を強く抱きしめるのだった。

う（穂乃果！もう凄く心配しましたよでも良かったです大怪我にならなくて本当に本当に、）

こ（うえくんほのかちゃん良かったよ階段から落ちるほのかちゃんを見た瞬間もう会えなくなるんじゃないかと思ひ心配したよ）

そう言いながら幼馴染の2人は涙を流しながら穂乃果に抱きしめるのだった。

穂（ご、ごめんなさいみんな、う、うえくん）

穂乃果も自分に起きてしまった事に対してみんなに謝つた後、階段からもし落ちてしまえば大怪我を負つてしまつていたかもしれないという恐怖が今になって出て来たのか泣いてしまつた穂乃果。

すると優太が泣いて抱き合つている二年生の3人組みに近づき穂乃果の頭を優しく撫でてあげながら話しかけた。

優（良かった君に怪我がなくてだけでもう、はしやぎながら階段の近くを走つたら駄目だぞ高坂）

優太は泣いている穂乃果を落ち着かせる為に頭を優しく撫でていたそのおかげが大

分落ち着いたらしく顔を赤くして（も、もう大丈夫ですから、頭を撫でるのを止めて下さいは、恥ずかしいので）

そう言つて来たほのかに優太は優しい笑みを浮かべて（落ち着いたみたいだな良かった）

するとことりと海未がまだ優太と気付いていないのか2人に揃つてお礼を言われた後、2人は（何故ほのか（ちゃん）の名前を知っているのか？と聞いて来た。

すると残りの6人も特ににことまきは口を揃えてあんた誰よと口調を強くして言つて来たのだ。

すると優太は、

優（そうか高坂達とは、少し前に会つたがその6人には会つた事が無かつたな、まあ高坂が今の俺を見ても分からないのは当然か今は後ろ髪を結んで無いうえに眼鏡をかけてるからな少し待つてくれ）

すると優太は後ろ髪をくくり眼鏡を外したすると二年生組は

穂 海 こ（あ！照井君（さん）！）

そう叫んだ3人を見て優太は苦笑いをしながら（やつと気付いてくれたか）と言つた後4人で会話を始めてしまった為他の6人はキョトンとした顔をしてしまった。すると絵里が優太に声をかけた

絵（穂乃果 海未 ことりその男の子は誰？見た所この町の子では無いわよね？）

そう言われてはつとなつた3人は優太の事を簡単に説明したので

そうして穂乃果達3人の説明が終わりみんなは、優太が風都からこの町に引越して来て道に迷つた時にたまたま会つて道を教えてあげた時に仲良くなつたと教えてるのである

優（高坂達が説明してくれたが改めて自己紹介をしよう、照井優ただ風都から引越してきてこの町で学生生活を送る事になった。そこの金髪の人と紫色の髪をした子以外は知っているよ、sの皆さんだねよろしく）

そう優太が言う9人は驚いたすると穂乃果が尋ねてきた

ほ（私達の事知つてたんだ、嬉しいなありがとう！）

穂乃果は泣いていた時とは別に凄く嬉しそうに笑い優太の手を掴んでぶんぶん振るのであつた。

優（あ、ああ風都からここに来る時にスクールアイドルを知つたんだが初めて見させてもらったのは、君達なんだアップされた動画を見せてもらった時に君達の純粋にダンスを楽しんで一生懸命に頑張っている姿を見て感動したんだ、だから俺は、sのファンであり一生懸命に頑張っている君達、sがカッコ良くて好きなんだ、）

優太は顔を少し赤くし照れながら自分は、sのファンであり一生懸命に頑張つて

いるμ、sがカッコ良くて好きだと優しい笑みを浮かべて言ったのである。

するとμ、sのメンバー9人は優太がμ、sの事を応援してくれているファンであり一生懸命に頑張っている自分達をカッコ良くて好きだと言ったのだ。メンバーは全員顔を赤くして照れてしまった。

μ、sのみんなが照れてしまうのは無理も無いだろ、歳頃の女の子であり

ましてや優太はそれなりに顔もいいのだ。それに優しい笑みを浮かべて、頑張っている自分達を応援してくれて好きだと言われたら照れない訳が無かったのである。

優（あ、いや好きと言う意味は君達のファンとしてだ、か、勘違いさせてしまったなら謝るす、すまない） 優太は好きと言う意味が違う意味でとられてしまったと思ひ慌て言うのであった。

するとμ、sのみんなは、はっ！となり大丈夫です分かっていますからと言ひ謝って来た。優太そう伝えたすると

優（そうか良かった、ところでμ、sのメンバー動画で見た時7人だったはずだが？）

優太はオープンキャンパス前の物しか調べていなかった為絵里と希の存在を知らなかったのである。ここにこが

に（あんた私達のファンと言いなながらオープンキャンパスの時に踊った動画見てないわけ？、そこからメンバーが2人入ったって書いてあるでしょ！）

少し強めの口調で言つて来たにこに対しみんなは（そんな言い方ダメだよ）怒られるのであった。　すると優太は、

優（それはすまなかつた、何せ俺もここに来る前に少し調べてだけと君達がオープンキャンパスの時に踊つた動画を見れなかつたのは色々あつて確認が取れていなかった、申し訳ない、よろしかつたらそこのお二人の名前を教えてもらつても良いかな？ファンとして）

優太がのぞえりを知らないのは仕方がない、オープンキャンパスの時期はライダーとしての知識や格闘術の修行と転校手続きなどが忙しかつたのである。だがにこにファンとして知らないのとは言われた方に素直に頭を下げたのであった。

そんな優太の姿を見てにこ以外のメンバーはジト目でにこを見ていたするとにこは少し言い過ぎた事を認めごめん少し言い過ぎたわと言うが優太も気にしなくていいと返事を返したのである。

絵（にこがあんなふう言つてごめんなさい、それと自己紹介させてもらうわ、綾瀬絵里学年は三年生　よろしくね照井くん）

希（ほなうちもやね、初めましてうちの名前は東條　希つて言うんよ学年は、エリチとにこつちと同じ三年生やよろしくね照井くん）

優太に絵里と希は自己紹介をしたのであった。　優太も改めて自己紹介をして握手

をしたのだすると海未が優太にある質問をして来た

海未（照井さんは何故神田明神を来たのですか？）

優太が何故ここに来たのかを尋ねると

優（少し早めに学校に行くつもりだったんだが、この神社の所で何故か足が止まってしまつてね、何でここで足を止めたのか分からなかつたけど、ついでにこれから新しい学園生活が送れるようにお参りに来たんだ。それで階段を駆け上がっていたら高坂が階段から転落仕掛けていた姿が見えてな何とか助けてあげられたって感じかな）

優太がここに来た理由を話すと穂乃果が改めてありがとうと言い手を掴んでぶんぶん振るのであつた。それから少し9人と話した後皆んなでお参りをしようと穂乃果が言い出したのでお参りをした。

その後優太は腕時計を見て

優（まじいそろそろ行かないと！）

そう言い出した優太は急いで走り出すのであつた。すると穂乃果は

穂（照井くん、助けてくれてありがとうーもし今度会えたら何かジュース奢つてあげるねえー） そう言いながら優太に手を振るのであつた。

優太はそれを聞いた時走るのをやめて穂乃果達に振り返つて言うのであつた。

優（そうかでは楽しみにしてるぜ！、だけど又直ぐに会う事になるからその時は本当

によろしく頼む！)

そう告げて優太は走って行くのであった。

その後走って行く優太を見た9人は口を揃えて(又直ぐに会えるってどう言う意味?)と言ったがすでに優太は階段を降りた後だったので答えは、帰って来なかったのである。9人は優太が言った意味が分からないまま、音ノ木坂学院に登校したのであった。

優太も彼女達が来る前に学院に着いたが理事長に遅いですよと少し怒られたのである。

そして時間は朝の全校朝礼に話は進む

朝から色々あった穂乃果達は学院で制服に着替え今体育館にいた。

穂(朝は色々あつて大変だったなあー 穂乃果もう疲れてちやたよ)

朝に起きた出来事に少し疲れを感じてか少しだらしく言った穂乃果

すると海未とことりが

海(大変だったのはこちらの方ですよ穂乃果たまたま、照井さんがあの時偶然助けてくれたから良かったものの、下手をしたら大怪我をしていたかもしれないですよ。せっかくオープンキャンパスを成功させてラブライブを目指そうと9人で頑張っているのに1人でも欠けてしまったら駄目なんですよ。もう少し穂乃果は落ち着きを持って行動して下さい！)

そう言つて海未は朝にあつた事を言い穂乃果を少し怒るのであつた、

こ（今回は私も、海未ちゃんと同じかな照井くんがたまたま助けてくれたから良かったけど。 下手をしたら大怪我を負つてしまふかもしれないね）
ちちゃんお願いだからあまり危ない行動はしないでね）

ことりも海未と同意見であり昔から一緒だった幼馴染が怪我をするのは当然嫌なのである。そんな二人に注意された穂乃果はごめんなさいと謝りもうあんな行動を取らない様にするのと約束するのであつた。

すると学院のアラームがなり全校朝礼がはじまつたのであつた。

簡単な挨拶をした後理事長がオーブンキャンパスの結果を学院の生徒全員に話した。

理事長（この度のオーブンキャンパスでは我が校のスクールアイドルであるμ'sの子達のおかげもあり大成功を収めアンケート結果も大変良いものだった事もあり廃校の件はとりあえず先延ばしになりました）

その話が出た瞬間全校生徒が喜びあつた特にμ'sのメンバーは抱きあつて喜びあつていたすると

理事長（ですがまだまだ油断は出来ません。我が校のスクールアイドルが頑張つてくれています、それでも廃校の件は簡単に覆りませんそこで、皆さんにはまだ伝えて居ませんがこの音ノ木坂学院を共学化の案が元々出ていてその為に一人の男子生

徒にわざわざテスト生として、来てもらいました)

理事長が共学化の案が出ていたてその為に男子生徒がこの学院に来ると聞き驚いていた。

穂(共学何てどうしてだろう? 私達の努力だけじゃ足りないのかな?) 穂

乃果は少し戸惑いながらことりと海未質問をした

二人はそれは違うと思うと言って話していたら

理事長(皆さんには黙っていて申し訳ありません。ですがそのテスト生を頼んだの男の子は私が直々にお願いをして了承してくれました子です。決してスクールアイドルの子達の努力は無駄ではありません! ですのでテスト生の子を歓迎してあげて下さい)

こ(お母さんからそんなお願いをするなんて、よっぽど信頼している子なんだね、それに私達の努力は無駄では無いつて言ってくれたし)

海(そうですねことりの言う通りですよだから穂乃果も元氣を出して下さい)

と二人に自分達の努力は無駄では無いと励まされた穂乃果はうんと元氣な返事をしたが一つ疑問を口にした。

穂(あ! それじゃあ転校生って男の子なんだよね? 誰なんだろうーもしかして照井くんだったりして)

海(さあそれはどうでしょう? 分かりません)

こ（ことりは優しい男の子だったらしいな）

3人はどんな男の子が、テスト生として来るか話していた。もちろん他の6人のメンバーも同じ様な事を話しあっていたすると。

理事長（では紹介します、風の街風都からテスト生として来てもらった照井優太君です。どうぞこちらに来て挨拶をお願いします）

テスト生の名前を呼んだ理事長その名前を聞いたμ sのメンバー9人は各学年に分かれているがえ？と言うのであつた

するとはいと言う返事が聞こえた後、今日の朝に出会ったばかりの少年が現れた為9人は驚いた。

穂海 こ（て、て、照井君（さん）☒）

花（エエうあ、あ、あの人がテスト生なのお）

凜（あああの人穂乃果先輩を助けてくれたからカツコイイ人だにや）

真（ど、どうなってるのよもう！イミワカンナイ!!?）

絵（ハラショー、まさか今朝あつたあの子がテスト生だなんて）

希（カードに出ていたうちの新しい出会いは、あの男の子やつたんやね）

に（まさか今朝にあつたあの子が来るなんて思っても無かつたわ！）

μ sのメンバー達がなんだかんだで優太がテスト生だと知り驚いていたすると

優（皆さん初めまして、自分は風都からテスト生として来た、照井優太と言います。今回共学の家が出ていたと言う事と理事長から推薦があつた為来ました。

この伝統ある音ノ木坂学院は女子校ですその女子校に男子生徒なんかがと思う人も居るかもしれません。ですがこの伝統ある学院を廃校にしたく無いと言う気持ちは皆さんと一緒にです！自分も皆さんと一緒に頑張つて行くつもりなので、これからの学園生活と一緒に送りますようよろしくお願いします!!?)

優太はそう言つてこの学院を一緒に守りたいと言う思いを話したのであつた。すると全校生徒から拍手が送られ（これからよろしね！）と全校生徒は言つてくれたのであつた。

その後朝礼は終わり優太は2年の教室行つたもちろん穂乃果達の居るクラスである。クラスに入ると1時間目の授業はホームルームになり優太への質問コーナーになつていたその優太はお昼まで授業を受けて居たが休憩時間にも質問攻めにあつたのは言うまでも無い

そして 時間はお昼休みに変わる

優（ま、まさかここまで普通に受け入れられたあげく質問攻めに合うとは思わなかつたぜ (ぐたつたり))

優太は朝からずっと暇さえあれば女子生徒達に興味や好きな女の子のタイプなど聞

かかれていた為予想以上に疲れて机に突っ伏していたすると、

穂（照井君と一緒に昼ご飯食べようよ）

優太が机にへばつている中穂乃果達が一緒にお昼を食べようよと言ってくれたのであつた

優（高坂それに園田と南も一緒か、俺なんかでよければ呼ばされてもらおう）

そう言つて優太は席を達穂乃果、海未、ことりの3人と一緒に中庭の方に向かつたのであつた。

穂（うん今日もパンが美味しい♪）　　そう言いながら笑顔でランチ〇ツクを食べてい

る穂乃果すると海未が

海（穂乃果パンばかり食べていては太りますよ）

そう言つて穂乃果に言つた海未すると穂乃果はいいじゃんと言つてパンを食べていた。

すると優太の横で弁当を食べていることが優太の弁当を見て聞いてきた。

こ（ふうえく照井君のお弁当とすごく美味しそうだねくお母さんが作つてくれたの？）

優太は今朝早くから作つたお昼ご飯を食べようとして弁当箱をあけた時にことり聞かれたすると優太は、

優（いやこの町には俺一人で来たんだ、だからこの弁当も俺が作ったんだよ）
 すると横で尋ねたことりと横で軽い言い合いをしていた2人もそれを聞いて驚いて
 いた

穂（照井くん自分でお弁当作ったの☒すごいね）

海（まさか一人暮らしのうえに自分でお弁当を作るなんてすごいですね）

こ（照井くんて意外に家庭的なんだね〜おかず取り替えっこしたいな）

それぞれが優太にすごいと言った後ことりにおかずを取り替えっこしようと言われたので優太は、

優（いいよなんなら、園田と高坂も少し食べてみるか？余り味には自信が無いが）

すると穂乃果達3人は食べるという少し味見としてもらって食べたすると3人とも
 美味しいと言っていた為優太は良かったと笑顔になるのであった。

穂（照井くんのお弁当すごく美味しいよ〜今度穂乃果にも作り方教えてよ）

海（あ！穂乃果ずるいですよそれでしたら私も教えて欲しいです）

こ（照井くんのお弁当美味しいと言われ作り方を教えて欲しいと言われ優しいです♪）

3人に弁当が美味しいと言われ作り方を教えて欲しいと言われ優太は

優（俺が作った物でもいいならいぞあとそれから、、）

優太は作り方を教えてやると言ったあと頬をかいて黙ってしまった

すると3人は、穂、海、こ（どうしたの（です）と聞かれた

どうしたのかと聞かれた優太は少し恥ずかしがりながら、

優（俺の事は照井ではなく優太と呼んで欲しいその、なんだもう初めて会った中では無いし良かったら俺と友達になってくれないか？）

普段はクールな優太だがこの町に来て親切にしてくれていた3人とは同級生であり同じクラスになった穂乃果達とは会ってまだ二日程だがもう仲良くしてくれているので優太は友達になって欲しいと照れながら言ったすると3人は、

穂（うん♪、いいよ友達になろう優太君）

海（はい私も穂乃果と同じです、私でよければ良いですよ優太、それに穂乃果を助けて下さった方ですしね）

こ（うん♪ 私も海未ちゃんと一緒ですことりなんかでよければ、お友達になろうよ♪よろしくね優君）

3人は一瞬間を見合わせ笑顔で友達なろうと言ってくれたのであった。

優太は3人に（ありがとう高坂、園田、南）と言ったが3人は少しムスツとした顔で自分達も下の名前前で呼んで欲しいと言ったのであったすると優太は、

優（分かった、それじゃあ改めて今日からよろしく！穂乃果、海未、ことり）

そう言った優太に3人は男であれば絶対にドキツとなる笑顔でうんと言うのであつ

た。もちろん優太もその笑顔に情け無い顔になってしまったのは言うまでも無い

そんな事をしていたら、sの一年生組みと三年生組みが中庭に集まって来たのであった。

6人（穂乃果（先輩）） 穂乃果の名前を呼び駆け寄って来た6人

穂（どうしたの？皆）

6人にどうしたのか聞くとどうやら優太が何故この学院のテスト生として来たのかを聞こうと思ひ穂乃果達と優太に会いに来たのであった。

それを聞いた優太は何故テスト生の件を受けたのかを話した、

優（俺がこの学院のテスト生を受けたのかか、理由はことりのお母さんである理事長さんにそして俺の母さんから頼まれたから受けたただそれだけだ） 優太はneoの事を伏せておきそれ以外は事実だったので素直に言うのであった

9人（え？それだけの理由でテスト生の件を受けて前に居た学校を転校したの？）

9人は驚いていた自分達の学院の理事長と優太の母親に頼まれた為前の学校を転校して来たのだと言うのだから

本当はそれだけが理由では無いが、

絵（私達の学院の為に前に居た学校をごめんなさい）

絵里はこの学院の為に前の学校を転校して来た優太に代表して謝ったのである

と、

優（綾瀬先輩謝らないで下さい俺も最初にこの件を聞いた時悩みました、けど理事長や俺の母さんがこの学院を卒業してなおどれだけ大切に思っているかその気持ち聞き思いに答えたくて今回のテスト生の件を受けた。だから君達が謝る事は無いし気にしないで欲しい）

優太はそう言つて笑顔になりながら気にしないで欲しいと言つた

すると皆は笑顔でありがとうと返したのであつた。

すると凜が、凜（照井先輩の趣味つて何ですかにや？）

趣味の質問をされた優太はうつとなりながら（俺に質問をするな？ r z）

と明らかに疲れた顔で言つた姿を見て2年の3人は苦笑いをし他の6人はえ？となつたすることりが、

こ（優君休憩時間に私達のクラスの子達に質問攻めにあつて大変だつたんだからしばらくは質問されたく無いんだつて）

ことりがそう言うのと皆はお疲れ様ですと言ひ優太はありがとうと返したすると穂乃果が優太に興味などを聞いていたので6人に話したのでる

穂（優太君つてすごいんだよ、昔から武術をしてたりダンスが出来たり後ね、さつき分かつたんだけど料理も上手何だよ）

穂乃果が優太の代わりに凜に説明するのであったすると6人は驚いていた

凜（照井先輩ってすごいんだにゃ〜　けど目つきが鋭いからちよつと怖いかもですにゃ）

凜がそう言った事に二年生の3人以外の皆はうん×2と頷いていた

優（星空褒めてくれるのはいいが、目つきが鋭いつてのは余計だ俺もそこは気にしているだから伊達眼鏡をかけて少しはマシに見せてるんだ）

優太は凜に目つきが鋭い事を言われ気にしているから眼鏡をかけていると言ったのである。　ちなみ優太の視力は両方とも2.0である

自分の目つきが鋭い事を気にしていると云った後凜はごめんなさいと言って来たが怒ってないから気にするなど云った後、優太を合わせて10人は優太のいた風都がどんな所かを聞いて優太は風都の話をしていた

しばらく話しているとお昼休みの予鈴が鳴り出したので皆は各学年に戻るのであった。

そして皆が自分達のクラスに帰る少し前の学院の屋上から、

何処から現れたのかフードかぶっている謎の男が学院の屋上のフェンスの外に立っており中庭にいるμ、sのメンバー達を見てこう云ったのである、

?（あの9人がμ、sのメンバーかまだ子供だな、だがボスの命令だμ、sのメン

バーを消さなければいけないが、行動を起こすならば夕方だなこの時間では他の奴らに騒がれてしまうからな　ん？あの女達の中に1人だけいる男がアクセルか、相手とつて不足は無いこのマグマ全力を持ってμ　sのメンバー達を消し、アクセル貴様を殺す！)

謎の男の正体はneoの刺客の1人マグマであった、マグマは殺気を放ちながらμ、sのメンバーを消しアクセルである優太を殺すと言い放つたのちにふつと姿が消えたのであった、

するとその殺気を感じたのか優太はマグマが立っていた場所を睨んだが既にマグマは姿を消した後だった、

優（物凄い殺気をあの場所から感じたが気のせいか？）

そう言いながマグマがいた場所をずっと睨んでいた優太するとその姿に気付いた海未が声をかけて来た。

海（ど、どうしたのですか？　優太そんな怖い顔をして屋上をずっと睨みながら見て何かあるのですか？）

海未は鋭い目つきをもつと鋭くして屋上を睨んでいる優太に問いかけてたのであったすると優太は、

優（いや何でも無い、そんなに怖い顔をしていたか俺？）

海（はい、とても怖い顔をしていましたよ、下手をしたら学院の皆さんが少し泣いてしまうのでは？と思うくらいに）

優太は自分がそんな顔をしていたのか？と聞くとはいわれ少し反省をしていた確かに女の子しか居ない学校で殺気を飛ばして睨みつけてしまったら理由の分からない女の子が見たなら泣いてしまうだろうと思ひ、海未に（そうかすまないと）言い無意識に頭を撫でて教室に向かう優太だが、

頭を急に撫でられた海未は顔を真っ赤にして（ボン!!?）と音がしてあわわわとなつている海未を見て、優太は（どうした？具合でも悪いのか?）

と聞いた優太すると横で見えていた穂乃果とことりはあつちやくと口を揃えて言い優太から距離を取つた。すると海未が顔を真っ赤にしたまま優太に近寄り、

海（は、は、は、破廉恥です!!?優太!!?）

するといきなり強烈な右ビンタをくらい吹っ飛んでいくのであつた。

案の定の行動をすつと思つて見ていた穂乃果とことりは苦笑いをしていたのであつた。

優太は自分が頭を撫でたせいで照れた海未が照れ隠しでビンタをされた事に気付かず（何故にビンタ☒）と言いなから飛んで行つた優太であつた。 それを見ていた他の生徒は目を点して驚いていた。

そんな事があり何故自分らビンタをされたか分からずじまいの優太と穂乃果達の3人は教室に戻るのであった

そして午後の授業が終わり放課後、

優（ふうくやつと初日が終わったな色々疲れたぜ、クラスの皆に質問攻めに合うわ、ただ怖がらせてしまったと思つて謝りながら頭を撫でた海未に何故かビンタをされてしまい吹っ飛んでしまうわ大変だった、

下手をしたら父さんや翔太郎さんより強いんじゃないか海未の奴？）

海未が自分の父や師である翔太郎より強いのでは無いかと一人でぶつぶつ言いながら帰ろうとしていたすると穂乃果が声をかけて来たのであった

穂（優太君今日この後予定あったりするの？）

穂乃果が放課後に予定はあるか聞いて来たので優太は

優（いや特に予定は無いぜ、どうした穂乃果？）

優太は学院に来たばかりであり部活は体格差がある為運動系の部活には入れない為帰宅部になるつもりだったので予定は無いと言うのであった。

穂（本当！だったら優太君アイドル研究部に見学に来ない？）

優太はアイドル研究部と言われた瞬間に目が点になり（アイドル研究部？何だそれ）と言つてしまったすると、海未とことりが穂乃果が言つてきた事に詳しく説明してくれ

たのであった。

優（簡単に言うとアイドルを部活の通り研究する場所で、あり君達 μ 、sの部室でもあるわけかだけど、何故俺に見学させに来た？）

すると3人は、アイドル研究部の部活兼 μ 、sの活動をしている事と優太に他のメンバー達とも仲良くなつて欲しいと言う事で優太に見学をしに来てもらい交流を深めたいと言つて来たのであった。

優（成る程分かった、俺で良ければ穂乃果達のアイドル研究部に見学をさせてもらおう）

優太としてはneoから μ 、sのみんなを守る為に交流を深めて仲良くなろうと思つていた優太は丁度良かったと思ひ誘いを受けたのであった。

見学に行くと言つた優太に3人は笑顔になつたその後、優太は穂乃果に早速行こうと言われ手を引つ張られながらアイドル研究部に行くのであった。

アイドル研究部に連れて行かれた優太は、部室の中にはみんながそろつていたので軽く挨拶を済ませたあと改めて自己紹介をしその日の放課後は終わったのである

下校後の道で、

μ 、sの9人はみんなで帰つておりテスト生として来た優太の話をしていたのであった

穂（まさか優太君が転校生でテスト生なんて信じられないねえ、ほんの少し前に会っただけだったけど、今は学院の生徒なんて信じられないねえーみんな）

海（そうですねまさか、つい最近道を教えてあげた方がテスト生で同級生になるとは思いませんでしたね）

こ（そうだね、穂乃果ちゃん、海未ちゃんでも、少し目付きは怖いけど、すごく優しいよね優君って）

花（そうなんですか？ことり先輩、わ、私はちよつと怖くて、照井先輩の事苦手です）

凜（かよちゃんは照井先輩の事苦手なんだにやー、凜は照井先輩目付きの少し怖いお兄さんって感じだにやー、真姫ちゃんはどうもう照井先輩の事？）

真（私？ 私は別に興味なんか無いわあんな人、ただの目付きの鋭い先輩よ）

に（真姫ちゃんあんた目付きの鋭い先輩はかわいそうじゃ無い、確かに目付きは悪そうだけどいい奴じゃないあの照井って子）

絵（そうねにこの言う通り照井君はいい人だと、私は思うわ来て早々学院の困ってる生徒の子達を助けてあげていたし、本当に私達の学院を守りたいって気持ちがあつて来て来たわ。照井君に生徒会の仕事手伝ってもらえないか頼んで見ようかしら？）

希（そうやね、あの子目つきは少し怖い感じやけど、男の子の目線からの意見も欲しいし良いかもしれへんねエリチ）

9人は今日の朝出会った少年でテスト生として来た優太の事を話しながら帰っていた。優太は下校する時に用事があると言われ9人で帰っておりそれで今日来た優太の話をしていたのであった。

そんな事を話しながら帰っていたμ、sの前に何処から出て来たのかフードかぶつた男がみんな前に立つて居たのである。

？（お前達がμ、sのメンバーで当たっているな？）

いきなり現れたフードの男に自分達はμ、sかと、聞かれたメンバーは少し後ずさりをしてしまった。

すると意外にも真姫がフードの男に質問してきた

真（何よあんた？、私達μ、sのファンか何かかしら？）

みんなはいきなり現れたフードの男が余りに不気味のため声を出せなかったが、真姫が先に声を出してフードの男に質問をしたすると、

？（ふつ　口の聞き方が少し悪いな小娘だが、俺は貴様達のファンなどでは無い）

絵（で、で何でしょう？私達に何かごようでもおありですか？）

何とかその男に声を出して聞いた絵里、他のメンバーはフードの男の放つ不気味なオーラに恐れてしまい声を出せないでいた、フードの男は絵里の質問にたいしてドス黒い笑みを浮かべてμ、sの9人に告げた

? (くく、俺は貴様らのファンなどでは無い、個人的に俺にはお前達に恨みは無いがボスの命令でありミュージアムの夢を叶える為に悪いが消えてもらうぞ!!?)

男は、sに消えてもらうといい男はUSBメモリにmと書いてあるメモリを押し
たすると (m a g m a !!?) そのメモリから声が発せられ首に刺した

すると男はマグマドールパントに姿を変えたのであった

フードの男がマグマドールパントに姿を変えた瞬間9人は悲鳴をあげてしまいその場から動けなくなってしまったのである

マグマ (悪いがお前達が活動をしているとあの学院は、廃校にはならないだろう、ガイアインパクトを起こすのにはあの学院は邪魔になるだからお前達にはここで消えてもらうぞ小娘達!!?)

そう言うのとマグマドールパントは殺気を放ちながら穂乃果達9人に近づいて来たすると海未が先に我に振り返りみんなに (み、皆さん!!? 逃げましょう!!?) そう声を出したすると他のメンバー達もハツとなり急いで逃げたのであった

マグマ (逃がすか! 行けマスカレード達よ奴らを捕まえて来い!)

マグマは逃げた穂乃果達を消す為にマスカレード達が現れた追いかけるのであった
穂 (ど、ど、どうしよう、人が怪物になっちゃったよ)

海 (と、とりあえず走りますよ! それで広い場所で人が多い場所に行きましょう!)

こ（で、でもことり達が広い場所で人が多い場所に逃げたらもつと大変なんじゃないかなあ）

花（凜ちゃん怖いよ　ハアハア）

凜（かよちん大丈夫だよ絶対に凜が助けるからね！）

真（凜！花陽を守ってあげるのはいいけど自分の事もしつかり考えなさい！、けどあの怪物何で学院が廃校にならないと困るって言ってたのかしら　もう本当にイミワカンナイ!!?）

に（まきちちゃんが言ってた事確かに気になるわねでも今は何処か安全な場所に行くのよ!）

希（そやね、とりあえず何処か安全な場所に逃げないとエリチ！警察に電話や!）

絵（今かけてるけどダメ怪物が出たと伝えてもいたずら扱いされて切られてしまったわ）

9人は背後から追いかけて来ているマグマとマスカレード達から必至に逃げながらどうしたらいいか話していたそして神田明神をとりあえず向かおうと話がまとまり今必至に逃げていたがしかし

海（きゃ!）

後少しで神田明神に着く手前で海未がつまずいてしまい倒れてしまった。他のメ

ンバーはそれに気付き急いで海未を起こしてあげるのであったがとうとうマグマ達に追いつかれてしまったのであった

マグマ（さあもう諦めて消えて貰おうかお前達!!?）

そう言つてマグマとマスカレード達は目の前まで迫つていたすると海未が

海（皆さん！私をおいて逃げて下さい！このままでは（駄目!!?）っつ！）

海未は自分が足をかけて転んでしまった際に足を挫いてしまった為に走れない為足手まといになりたく無いと思い自分を置いて行つて欲しいと言おうしたが8人駄目!!?と言われ黙つてしまった

8人（海未ちゃん（先輩）置いてなんか絶対行きません！）と8人は海未を抱きしめて守つていたすると

マグマ（ふん！とんだ茶番だ9人仲良く消えるがいい！）

マグマはその行動に茶番だといい炎の玉を投げ飛ばした

9人はもうダメだ！と思い目をつぶつた瞬間!!?）

（バツシュ!!?） 炎の玉が何かによつて弾かれたのだった目をつぶっていた9人は目をあけるとそこにはかなり重さのある剣を構えマグマ達に殺気を放ちながら睨んで立っていた優太がいたのであった

それに気づいた9人は、

穂海 こ（優太（優）君） 6人（照井（君）先輩）

9人（どうしてここにいるの？それにその剣は？）

驚いていた9人はなぜ自分達の前にいて何故剣を構えているのかを聞いた

優（俺に質問をするな!!?、と言いたいがお前達と分かれた後に嫌な予感がしてな後を追っていたらお前達が襲われていて助けに来たんだ）

そう言つて優太は9人の前に立ちマグマ達から守ろうとしていたすると

マグマ（お前がアクセルか？ 話しに聞いていた奴とはちよつと違う俺が知っている情報ではもうすでに歳を重ねていると聞いたがお前は若すぎる誰だ!）

neo達はアクセルである照井竜が教師か何かで来たと思つていたらしくマグマは少し驚いていたすると優太は口を開いた。

優（俺の名前は照井 優太、照井 竜の息子でありアクセルを継いだ男だ！ お前達がミュージアムneoの連中で間違いないな？） 優太は自分が竜の息子でありアクセルを継いだと言つたするとマグマは笑いだした。

マグマ（ははは!!? そういう訳か! どうりで若い訳だ そうだ小僧、俺たちはneoの間であり 俺の名前はマグマ μ sの小娘達を消しアクセルであるお前を殺しに来たものだ!）

するとその会話を聞いていたメンバーは、自分達を消し優太を殺すと言つた事にたい

し怯えていたそんな中海未が、マグマに質問をした

海（何故私達や優太を殺そうとするのですか？私達は学院を守る為に頑張っているのですよ、それをガイアインパクトなどと意味の分からない物を起こす為にそんな事をするなんて信じられません！）

海未が自分達は学院を廃校から救う為に頑張っているのにガイアインパクトなどという意味の分からない事をする為に自分達が、殺されるなどとそんな理不尽な事は信じられないと言ったのであったそれにくあえて8人も同じ事をマグマに言ったすると

マグマ（黙れ!!？ お前達見たいな子供に俺達neoが行おうとしている素晴らしい計画が分かるまい！目障りだもう消えろ!!？殺れマスカレードどもよ）

そう言つてマグマは、海未が言つた事にたいし激昂し消えろと叫びながらマスカレード達に命令を下した。それを見て9人は震えてしまい動けないでいたすると優太は後ろにいた9人の前を立ち続けていた、すると優太が少し離れていると言つた、μ'sの皆は一緒に逃げようと言つたが優太は（ダメだ）と言つてマスカレード達の中に行こうとした優太だが、それを最初に友達になつた穂乃果、海未、ことりの3人が優太の腕を掴み離さずにいた。

穂（だ、ダメだよ優太君あんなのに勝つてこないよみんなで逃げようよ）

海（穂乃果の言う通りです、たとえば優太が武術をなされていてもあんな危険人達には

敵いませんよお願いします。皆で逃げましょう優太)

こ(そうだよ優君私達を助けてくれようとしてくれるのわ嬉しいけど皆で逃げよう)そう言つて優太の腕を掴み行かせまいとしていた3人すると優太は二年生組の3人に言つた、

優(穂乃果、海未、ことり心配してくれてありがとうけど俺はあいつらと戦わないといけないんだ、すまないけどそのお願いは聞けないよ、

けどこれだけは約束する絶対にあんな理不尽な奴らからお前達^々sのみんなを守る!!?)

優太は逃げようと言われたが自分は戦うため逃げる訳にはいかないと強い思いを伝えた、すると3人もその決意には勝てないと分かりますある約束をさせた

穂 海 こ(絶対に無茶はしないで(下さい))

3人は優太に無茶をしないでと強い思いを伝えたすると優太は優しい笑みを浮かべ3人の頭を撫でてあげた後

優(分かつた無茶を絶対にしないと約束しよう穂乃果、海未、ことりさあお前達も早く綾瀬先輩達の所まで離れている)

3人は頭を撫でられて恥ずかしがっていたが(はい)と返事をし絵里達がいる場所までには離れた。

皆が離れたのを見て確認した優太すると後ろにマスカレードが迫っており9人は危ないと言った瞬間

バキ!!? つと音がした

背後にいたマスカレードに裏拳を叩き込んだ優太するとその裏拳をされた一人は倒れたのであったするとたかが高校生の少年に倒された仲間を見て驚いていたマスカレード達とマグマ達を見て優太は言った、

優（悪いが俺はお前らを叩き潰す!!? 覚悟はいいな?）

そう言つて殺気を出した優太それを合図にマスカレード達が襲つて来た

襲いかかつてきたマスカレード達の攻撃をかわし次々とマスカレード達を拳や蹴りを叩き込んで倒して行くそれを見ていた9人は

穂（優太君ですごくいいね、あんな人達をテレビのヒーロー見たいにばんばん倒してるよカッコいいね）

海（穂乃果何を呑気な事を言っているのですか!、逆に優太がああ怪物と互角に戦えている方がおかしいんですよ!）

こ（海末ちゃんが言ってる事は私も分かるな何か、まだあんまり優君の事は分からないけど、あの人達の名前を聞いたらすごく怒った顔をしてたし何か、怖いよ今の優君）

花（わ、わ、私も少し怖いですが今の照井先輩何か違う学院ではすごく優しいそうだったのには全然違いますし）

凜（確かにちよつと怖いけど凜は、今の照井先輩はすごくかつこよく見えるなだつて凜達を絶対を守るって言ってくれてあの悪い人達やつつけてくれるもん）

真（凜あなたもう少し考えてみなさいよ、あんな怪物に姿を変えた人達と戦えるじてんでもうおかしいでしょうあの照井先輩って人）

に（まきちちゃんの言う通りだわ、照井って本当はあいつ、あの怪物に姿を変えた奴らとグルだったりするんじゃないの？）

絵（にこも真姫も勝手に思い込み過ぎよ！、見てみなさいよあんなに必死に私達を守るとしてくれてる照井君をあの人達の仲間なら私達を守る事なんてする必要が無いわ）

希（エリチの言う通りや、あの照井君って子は私達を守るって言ってくれたんだから信じよ照井君をそれにの子からは、他に何か特別な力を感じるんよ）

9人はマスカレード達と戦っている優太を見て皆は思った事を話していたするとマスカレード達は既にほとんど倒されておりマグマを殴ったり蹴ったりを繰り返してエンジンブレードで斬り飛ばそうと振り下ろしたが、

がしっ！マグマは優太が振り下ろしたエンジンブレードをいとも簡単に片手で止め

た

マグマ(どうした? マスカレード達を生身で倒した事は褒めてやるだがそんな重い剣を振り下ろすだけで俺を倒せると思うなよ小僧!!?)

そう言いながら止めた剣を離れた瞬間拳に炎をまとい優太に殴りかかった、優太はもろに受けるとまずいと思いとっさにエンジンブレードを横に向け構えガードをしたのだが、

何とかガードをし威力を殺したがエンジンブレードごと吹き飛んでしまう

優(うぐつ!!?)

穂海こ(優太(優)君)

6人(照井君(先輩))

9人は優太が吹き飛んでしまう姿を見て名前を叫んだ、吹き飛ばされた優太は何とか無事であったがダメージが大きすぎた為エンジンブレードを地面に刺して立っていた

優(あ、危なかった後少しエンジンブレードで防いで後ろに飛んで行くのが1歩遅かったらまともに喰らってたな、まさか中級ドーパントがここまでやるとわな仕方ない本当は使わずに倒したかったがこれ以上あいつらに心配かけたくないな)

そう言っつてぶつぶつ優太が言っていたら、穂乃果達9人はすごい勢いで優太に近寄ってきた、

9人（大丈夫☒）

そう言つて9人は優太に近寄り特に二年生組の3人は優太が怪我をしていないか確認した後、無茶しないつて言つたよねと、言い少し涙目になつていたすると優太は、
優（ご、ごめん少し無茶したけど怪我はして無いし心配をかけてしまつたすまない、みんなに一つ約束して欲しい事がある）

9人（約束？）

約束して欲しい事があると言われた9人は何でかと聞いて来たすると優太は

優（これから、俺がする事を見ても君達以外誰にも言わないと約束して欲しいそして俺は、あいつらの事を知っているしあいつを倒した後君達に俺がここに来たもう一つの理由話すよ）

優太は真剣な目をして言つたすると9人は少し考えた後、

穂（うん分かつた約束する）

海（分かりましたではあの怪物になつた方を倒したら話して下さいね優太）

こ（私も約束するねけど怪我とかしちやダメだよ）

花（わ、私も約束します）

凜（凜も誰にも言わないつて約束するにや）

真（分かつたわ約束するけどあなたが隠している事全部話さないよ）

に（私もまきちゃんと同じよ！）

希（うちも約束をするね照井君けど無茶はしたらあかんよ）

絵（私も約束するわけどみんなが言ってた通りちゃん話してね）

約束をすると9人に言われた優太は約束すると言った後また少し離れていてくれと言いは離れたすると

マ（どうやら話は終わったみたいだな諦めて俺に殺られるアクセル）

優（悪いけどお前みたいな奴に負けるつもりも無いそして俺は、*μ* sの皆を絶対に守る!!?）

マグマに殺されろと言われた後優太は負けるつもりも無いと言ったそして、

優（悪いがもうお前を倒す！）

優太はアクセルベルトを取り出し腰に装着した後レザージャケットからメモリを取り出しそのメモリのボタンを押す*axel!*とガイアウイスパーがなるそして、

優（振り切るぜ！変っ………進っ！*axel!*）

優太は変身と叫びアクセルメモリをベルトに刺してグリップを握り回した瞬間もう一度*axel!*とガイアウイスパーが聞こえた瞬間赤いオーラが優太の周りを包み込んだするとそこには赤き鎧をまとった戦士に姿を変えた優太がいたそして

ア（さあ・：振り切るぜ!!?）と父が変身した時に言っていた台詞を無意識言ったのであった

その姿を見てμ、sのみんなは、

9人（へ、変身した!!?）

花（エエくて、照井先輩がヘンシンシツチャタノ〜　ダ、ダレカタスケテ〜）

凜（かよちんチョットマツテ〜）

真（ちよつと花陽、凜いつものお約束はいいわよ何よあの赤い奴）

に（し、知らないわよこっちが聞きたいわ）

絵（ハ、ハラショー　照井君が赤い鎧を着た戦士に変わったわ!）

希（ス、スピリチュアルやね、今のあの姿をした照井君からパワーがすごい溢れ出

るやん!!?）

穂（ほえー何かすごくかつこいいよ〜）

こ（私もそう思うあの赤い人かつこいいね〜）

海（何を言ってるんですか！　穂乃果、ことり、それに優太あなたは一体何者なので

すか?）

皆は思った事を口にしていたが海未だけは優太に何者なのか聞いて来たすると優太

は

ア（海未事情はあいつを倒したら全て話すよ、それと俺の今の名はアクセル!!？仮面ライダーアクセルだ）

9人（仮面ライダーアクセル？）

優太がアクセルと名乗ると皆は頭に？マークがでてしまい戸惑っていたらアクセルに変身した優太が

ア（とりあえず離れてろ！これが終わったら必ず説明する）

9人（は、はい）

アクセルは、みんなの返事を聞いた瞬間駆け出していき一瞬で近づきマグマに一発パンチを入れた

バキ！と音がなりマグマは低い唸り声を出して飛んでいった

突然殴り飛ばされたマグマは驚きを隠せずこう言った

マグマ（ば、馬鹿なこの俺が小僧ごとき吹き飛ばされるとは認めんぞ絶対に認めん死ぬ!!？アクセル）

マグマは殴り飛ばされた事に激怒し手のひらに溶岩の大きな塊を作りそれを投げ飛ばしそれがアクセルに直撃した瞬間爆発したそして。アクセルの立っている場所は煙が上がり見えなくなっていた、それを見た9人は悲鳴をあげたするとマグマは直撃した

事を確認した後

マグマ（さあ次はお前達だ小娘ども消えろ！）

それを聞いて怯えてしまって動けなくなるが、sのメンバー達もうダメだと思ったその時

？（待て!!？誰がその子達に手を出していいって言ったこのアホが俺は殺られてねえぞマグマ!!？）

煙がはれその中から声が出た瞬間

穂海こ（優太（君）） 6人（照井君（先輩））

9人は無事だった優太を見て名前呼んだそして優太はエンジンブレードにエンジンメモリを刺しその力で衝撃波を出してマグマに当てたのであったそれをもろに喰らったマグマは

マグマ（ぐああー！ば、馬鹿な俺のあの攻撃を受けてもむ、無傷だとありえん！何故だ）

マグマは自分が放った溶岩の玉が当たったと思い喜んでいたがよく見るとアクセルはダメージを受けていなかったのだ

ア（ふん！、あんたどうやらそのマグマメモリとのシンクロ率が余り高く無いようだなそのおかげもあってあの溶岩の塊もあまり威力が弱かったからなだから、うける瞬間

エンジンブレードで斬り裂き無事だったわけさ分かったか？単細胞のお馬鹿さんよ！

マグマはメモリとのシンクロ率が余り高く無いこと知られてしまい焦っていたガイアメモリはシンクロ率が高ければ高い程そのメモリの力が上がるがその逆もあるのだ。マグマはメモリとのシンクロ率が高く無いので余り力が出せないことを見破られたあげくその攻撃を剣で切り裂かれ単細胞だと言われたマグマは激怒した

マグマ（黙れ!!？小僧ふざけた事を言いやがってこれで終わりにしてやる！）

マグマは怒りをあらわにしながら終わりにするといいい左腕に全てのエネルギーを集めていたそれを見てアクセルは

ア（どうやらあれで終わりにするみたいだなだったら俺もこれでトドメを刺す!!？さあーふり（穂（待つて） おっととなんだ急に！）

優太はマグマは確実に決める為にエネルギーを集めていたのを見て自分もマキシマムでトドメを刺すつもりだったが穂乃果に止められた

穂（優太君お願い！絶対に勝ってね！私もあの人達の事怖いけど優太が守ってくれて言ってくれたか信じるよ。だから無事でいてね約束だよ！）

穂乃果がそう言った後他のみんなも同じだと言って信じてくれた皆を見てアクセルに変身していた優太は

ア（分かった！ありがどう俺を信じてくれてそして約束するあいつを倒したらこいつ

らの事や俺の来たもう一つの理由を、全部話すだからもう少し離れていてくれ)

9人(はい!)

優太は必ず勝つと言って自分が何者なのかを話すと約束した後皆は、はいと返事をし
て離れたそしてアクセルは

ア(今度こそ決着を付けようぜマグマ!)

そう言つてアクセルはマキシマムを発動させずに突つ走つてくるそれを見てマグマ
は容赦なく左腕でアクセルをなぐつたすると

マグマ(はははアクセルを殺したぞ後はお前達だこむす、む?な、なんだ左腕が動
かないなんだ?)

マグマはアクセルを殺したといい々 sのみんなに殺意を向けて向かおうとしたが
左腕が動かないでいた為その腕を確認するとアクセルがその左腕を片手で掴んでおり
離さないでいた。

マグマ(ば、馬鹿なあおの至近距離で技を使ったのに余りダメージが無い上に俺の腕を
掴んで止めただと信じられるかー!!?)

マグマは自分の最大の力を使い倒したと思つていたがダメージを余り与えられず片
手で止められてしまいマグマは錯乱していたそんな中アクセルは

ア(悪いが俺は父さんや翔太郎さん達と約束したんだお前達neo倒してこの町の人

達や学院をそして、sのみんなを絶対に守るってだからお前なんかには負ける訳にはいかねえ、だからこれで終わりだ!!?)

錯乱しているマグマに自分の覚悟を示したアクセルそして挿んでいた腕を離れた瞬間アクセルドライブのグリップを回しアクセルメモリの力を解放した

ア(振り切るぜ!!?) (axel maximum drive!!?)

アクセルはマキシマムを発動させた瞬間アクセルは前方に飛びマキシマムのエネルギーが集まった右足で後ろ回し蹴りを繰り返したその技の名はアクセルグランツァーそしてその技は吸い込まれ様にマグマに直撃したマグマは叫び声をあげながら苦しんでいたそして蹴りを放ち後ろを向いたアクセルが言った 『絶望がお前のゴールだ』

先代のアクセルであった竜が数々の悪を葬った時の台詞を優太も言ったそしてその台詞を言った直後マグマは大爆笑を起こしフードをかぶった男に戻りその横にあったマグマのメモリは砕けフードの男は散りなって消えたのであった。優太は変身を解いた瞬間にそれを目撃し驚いてしまう。

優(馬鹿な!!?確かにメモリブレイクしたはずなのに何故フードの男は廃になって消えたんだ?フィリップさんから聞いた話ではmaximumでメモリだけを壊せるはずなのに、、考えても仕方ないか近いうちにフィリップさんに聞くしかないなあ、ミュージアムneo何でメモリを使用した人が廃になって死ぬ様にしたのか、つくづ

くむかつく奴らだ人の命を何だと思つてやがる！)

優太は考えていた本来マキシマムで倒したドーパントは余程の事が無い限りメモリブレイクをしても死なないのだがフードの男が使っていたメモリは使用者がメモリブレイクをされると何故か廃になり死んでしまうのだ。

それを見た優太は、人の命を簡単に消してしまふ新たなメモリを作ったneoにたいして怒りが込み上げていたその時々、sのみんなに名前を呼ばれながらこつちに来たのでとりあえず全てを話すと約束をしていたのでメンバーがいる所まで走つたするとメンバーが走つて来たが特に穂乃果と凜がスピードを緩めず優太にタツクルをしなから抱きついて来たすると優太はびっくりして後ろに尻餅をついてこけてしまう

穂凜 (優太君 (先輩) すぐくカツコよかったよ (にやー))

優 (おい!!? いきなりタツクルしながら抱きつくなお前ら女の子だろ恥じらいが無いのかそれと離れる海未からものすごい殺気を感じるから頼む! 誤解されるから)

海 (優太! 破廉恥ですよ成敗しないで行けませんね!)

優 (ちよつと待て俺は悪く無いだろ! ええい穂乃果、星空いい加減降りろお前達に何故ここに来たかの理由を言う前に俺が死ぬだろ!)

するとそれを思い出したのか穂乃果と凜はとりあえず優太から離れたもちろんこの2人は海未に怒られたのは言うまでも無い

達ではありませんかですから教えて下さいあなたがここに来たもう一つの理由を)

こ(私も2人と一緒だよ優君とはもう友達何だから話して欲しいなそれにあんな人達が来てあの赤い人になれる優君がいるから怖くないし守ってくれますよね)

そう3人が言った後6人も優太がここに来た理由を知りたいし守ると言った事を信じると言ってくれた。それを聞き優太はありがとうと言って

優(分かったじゃあ何処か安全な場所で話そう何処かないかな)

穂(それじゃあ穂乃果の家においてよ穂乃果お家は和菓子屋さんなんだお母さん達も君を連れて行っても大丈夫だろうし)

優太は安全な場所で話そうと言った、するとすぐに穂乃果が自分の家に行こうと言う事になり穂乃果の家にみんなで向かうのであった

そしてみんなで穂乃果の家で和菓子屋さんをしている穂むらに向かうのであった。

こうしてアクセルを継いだ少年と9人の女神達の初めての出会いはこの終わるそして次の物語は優太が事情を説明し少したった日から物語が始まるのであった。

第1話少年と少女達の出会い 後編 完

第2話ワンダーゾーンで振り切るぜ!前編

優太がアクセルに変身しマグマを倒した後、sのメンバー達に全てを話すと云った優太そこで、安全な場所で話しをする事になり穂乃果の実家でもあり和菓子屋穂むらに向かった。

そしてその後無事に穂むらについた後、sのメンバー達に優太がここに来たもう一つの理由とneoが起こそうとしている事を全て話した、それを聞いたメンバー達は驚いていたのであった、

過去に優太が住んでいた風都で同じ事をおこそうしていたミュージアムを自分の父と翔太郎とフィリップ達が阻止したガイアインパクトを音ノ木坂でおこそうしている事を聞いたのだ普通の人なら信じられる話では無いだろう、

しかし以外にも、sのメンバー達はそれを信じた目の前で優太が変身した姿を見たのと優太が本気で自分達を守ってくれると約束をした事を信じて受け入れてくれたのであった。

こうして優太が話した事を受け入れた、sのみんなは、絶対にそんな事をしようとしている人に負けないそして学院を廃校にもさせないですと力強く言ったそれを聞いて

た優太は、

優（その覚悟受け取った絶対に君達や町の人をneoから守り絶対に廃校を阻止して学院を守ろう）

優太がそう言った後9人は（はい！）と返事をしたその後も少し話しをした優太がみんなをサポートしたいと言ったすると逆に穂乃果達はダンスの出来る優太に自分達のコーチとして今後助けになって欲しいと同じ事を頼むつもりだったμ'sのみんなはお願いしますと言った。

こうしてμ'sのメンバーは優太の話しを信じ受け入れてくれたのであった。それから少し質問された事に答えた後その日は優太が穂乃果以外のメンバーを家まで送って行ったのであった。

そしてその日の夜neo達が潜んでいる廃墟にて、

？（ボスマs達を消しに行ったマグマはやはりアクセルに倒されてしまいました）
フードをかぶった男がマグマがアクセルにやられたと報告を受けて

ボス（そうですかやはりアクセルにやられてしまいましたか、元々あの男はマグマメモリとのシンク口率が高くありませんでしたからね仕方ないでしょ）

？（はいですがボス次は誰を送り込むのですか？）

マグマがやられた事を聞いてもそうですかと悲しむ事さえしないボスと言われた男

そしてフードの男に次は誰を送り込むのかを聞かれたすると。

ボス（もう決まっていますよローチ！次は貴方をお願いしますよ）

neoのボスはローチと名を呼び、s達を消す新たな刺客として命令した

ローチ（仰せのままにボスこのローチ必ずやあいつらを消して見せます）

するとローチと言われた男はガイアメモリを押しした（cockroach）ガイア
ウイスパーがなった後コックローチドーパントに姿を変えた直後一瞬で姿を消したの
であつたそれを見たボスは

ボス（楽しみにしていますよローチ）

そう言つてボスは暗闇の中に消えて行つたのであつた

そんな事が起きている事を知らない優太はその日夜は疲れはてて眠つていたので
あつた。

そして優太がアクセルになりマグマを倒しneoが新たな刺客を送り出した新たな敵
コックローチドーパントは廃墟から出た後行動を起こさずもうなんだかんだで4週間
が過ぎ6月に入ったある日

音ノ木坂学院、

優太がアクセルに変身してマグマを倒して4週間が過ぎた、だがneoが動きを見せ
ていない事に不安を覚え考えていた。

優（俺がマグマを倒してもう4週間も経つがあれからneo達が襲ってくる心配がないあいつら一体何を考えている、ぶつぶつ）

優太はマグマを倒した、だが何故か新しい刺客は来ずにこの4週間は平和そのものであり優太はその間はμsの練習に参加しアドバイスなどをしていたのであった。

優（まあneoの連中が襲つて来ないに越した事はない、あいつらに危険が及ばなくてすむし、このままもう諦めてくれたら嬉しいのだが）

優太がそんな事を元々鋭い目を余計に鋭くし1人でぶつぶつ話していた為周りの生徒は怖がって近づこうとはしなかったがああ3人だけは別であり普通に優太話しかけて来た

穂（優太君何をぶつぶつ言ってるの？それとそんな怖い顔してるから私達以外の子達怖がってるよ）

海（穂乃果の言う通りですよ、顔が怖いです優太）

こ（そうだよ優君笑って笑ってね♪）

優太が1人でぶつぶつ言っていた所に穂乃果、海未、ことりが話しかけて来た。

優（ああ、お前達か何でもない少し考え事をしていたから怖い顔していたならすまないで？、俺に何か用事でもあったか？）

穂（もう優太君用事でもあったかじゃあないよ昼休みだよ今日は優太君も合わせて

μ sのみんなと一緒に中庭でお昼ご飯食べる約束してたじゃん忘れたの?)

優太が自分に用事でもあるのか質問したらもう昼休みなっており穂乃果達二年生組は優太と一緒に食べようと言っていたらしくそれをすっかり忘れていた優太はすまないとまた一言謝り中庭に向かった。そして中庭でμ sの6人が先に来て待つていた。その後はみんなで仲良くお昼を取りなが話していた、

穂 (そういえばあの変な人ドーパントって名前だっけあれから数週間ほど経つけど出てこないね) 又優太君が、変身した姿を見たいのになあ)

海 (穂乃果! 何を言っているのですか出てきてもらっては困りますよあんな危ない人達、それに優太一人に戦わせてしまううえに私達は、見守る事しか出来ないのですよ不用心過ぎますよもう少し優太の事も考えて言いなさい穂乃果)

こ (まあまあ海末ちゃん落ち着いて) 穂乃果ちゃんもそんな事をあんまり言っちゃダメだよ)

優 (相変わらずだなお前達3人は、確かに海末の言うとおり出ないで済むならそれが一番だみんなを危険な事に合わせる事が無いからな)

花 (照井先輩の言った通りです、あんな怖い人達にあまり出会いたく無いです)

凜 (大丈夫だよかよちん、あんな悪い人達が来たら凜と照井先輩がかよちんを助けるために振り切るぜにや)

(優) おい星空それは俺の決め台詞だとるなよな(・・・)

いいじゃ無いですかーあの決め台詞カッコいいもん凜も使わせもらいますにや♪)

真(でも不思議よねあんなUSBメモリ見たいなやつに地球の記憶かしら?それが一つ一つあつてその名前に関した力が使えるなんて信じられないわよね)

に(私はそんなのに興味無いわ!それより照井あんだ武術をやつてるんでしよう護身術教えなさいよ、もしあんだが私達のそばに居ない時だつてあるんだから)

希(確かになあゝにこつちの言つた事も一理あるなあゝ照井君が必ず一緒にいるとは限らんし身を守るにこしたことはないからからね)

絵(希とにこの言う通りね私達に護身術を教えてもらえるかしら照井君?後貴方に生徒会の仕事手伝つて欲しいのだけどお願い出来ないかしら?)

みんなで中庭に集まりご飯を食べながら話していたみんなそこで三年生の3人がμ'sのメンバーに護身術を教えて欲しい事と絵里から生徒会の仕事の手伝いをして欲しいとお願ひされた優太は、

優(護身術か、分かつたそれじゃあ練習時間の合間など見てみんなに教えるよそれと綾瀬先輩、生徒会の件俺で良ければ手伝いますよどんな事をしたらいんだ?)

絵(色々よ、けど今は庶務の方を手伝つて欲しいのお願い出来るかしら?)
優(分かつた)

優太は分かったと返事をした絵里にありがとうと言われた後にアクセルに変身した時の優太が戦っていた事をみんなが話していたら海未がある質問をして来た。

海（優太は何故武術をしているのですか？ あなたが戦っている姿を見て相当稽古を積んで身につけた強さでしよう？、誰かに武術を教えてもらっていたのですか？）

穂（あ！それ私も教えて欲しいなあ）

優（俺が何故武術をしているのかって？

それは警察官で風都を悪い奴らから守る父さんの背中がカッコ良くて憧れたんだ、それで俺は父さんや翔太郎さん見たいに強くなりたいから小さい頃から父さんや翔太郎さんに鍛えてもらったんだ

だから俺は父さんや翔太郎さんに追いつけるように今でも俺はみんなの練習が終わってみんなと帰ったあとに毎日夜も1人で走り込んだり武術の稽古を続けてるよ、

アクセルに変身して間もない俺には少し大変だからな、後もちろん警察官になる為に勉強も大事だからそつちも頑張ってるぜ）

それを聞いていた他のメンバーは自分達の練習を見てもらって尚夜に1人で武術の鍛錬や体力作りを欠かさずしている優太に凄いといった その話を聞き質問を最初にして来た海未が優太に言った。

海（そうなのですか自分のお父様に優太は憧れ武術を小さい子からしてお父様見た

いな方になる為に日々努力をしているんですね、私はそんな一生懸命にやる貴方をおいしいと思いますよ)

海未に何故武術をしているかを聞かれた質問に答えた優太すると海未にかっこいいと言われた優太は少し照れながらもありがとう言った、すると優太にたいしてかっこいいと言った海未に穂乃果は、

穂（あれれ、海未ちゃんあんなに恥ずかしがり屋さんなのに優太君の事をかっこいいだつてくもしかして海未ちゃん、）

穂乃果にからかわれてしまった海未すると顔を真っ赤にしながら、

海（な、ち、ち、違います！私も弓道を嗜んでいますし！そ、それに実家では日舞の稽古を頑張ってお母様の後を継ぐ為頑張っています、だから私と同じで親に憧れを持って頑張っている優太の事を尊敬してかっこいいと言ったんです！　べ、べ、別に異性としてかっこいいと言った訳ではありません！）

穂（本当かな、怪しいもん海未ちゃん優太君に本当は）

穂乃果は悪ノリしてしまつたのか余計にからかつてしまい海未は頭から（ボン！）と音をたててしまひには軽く泣いてしまひことりに抱きついてしまつていた

優（おい穂乃果あんまり海未をからかつてやるなよ何でか知らんが泣きながらことりに抱きついてるだろが）　スパッーン!!?

すると優太は海未にやたらと変にからかっていた穂乃果を見て呆れてしまい亜樹子から受け継いだ伝家の宝刀スリッパどこから出したのかそれを使い軽く頭をしばいた

スリッパで頭を叩かれた穂乃果は

穂（優太君?!?スリッパで頭叩くのやめてよく痛いじゃん!）

優（知らん!穂乃果が海未をからかうからだろほら謝つとけ）

穂（わ、分かったよごめんね海未ちゃん）

優太に謝つとけと言われ謝った穂乃果すると海未は泣き止まずにこどりに抱きついたらまだだった

海（ごうどりりほ、ほ、穂乃果が意地悪して来ますうえーん。・（ノ口、）・。・）

こ（よしよし海未ちゃん大丈夫だよもう穂乃果ちゃんもあんまりからちやかっめつ!だよ）

穂（ご、ごめん）

優（ほらこうやって穂乃果も謝ってきたんだから許してやってくれよ海未）

穂乃果がもう一度謝ったあと優太は泣いている海未の頭を優しく撫でもう許してあげて欲しいと言った

こうして穂乃果は海未に謝り泣いていた海未（分かりました優太かそう言うなら）と

言い穂乃果の事を許してあげたその後一瞬だけ優太の顔を見て頬を赤く染めながら、（そのありがとうございませう）と言った海未するとその顔を見た瞬間、優太は少し照れてしまった。

何故なら照れながらお礼を言った海未の事を凄く可愛いと思つたのだその瞬間可愛いと口から出そうになつたのを止めたもし可愛いと言われたら絶対に海未はショートを起こし優太に破廉恥ですと言つて又右ピンタを喰らわすのが目に見えていた為優太は可愛いと言うのを何とか我慢したのであつたが、

それを逃さず見ていた希は悪い笑みを浮かべながら

希（照井君もしかして海未ちゃんの事を、これは面白くなるなあ〜く〜く〜）

それを横で見っていた他の6人だが1人だけ悪い笑みを浮かべて笑つていた希を見て軽く顔を引きつったのである

に（え、絵里、希のあの顔を見た？）

絵（え、ええ見たわ何か悪い事を考えてニヤニヤしている顔だわ）

花（の、希先輩のあの笑顔とてもこ、怖いです）

凜（あはは照井先輩も悪いタイミングで希先輩に目をつけられたにや）

真（セクハラまがいの事を私達にする東條先輩にあんな所見られるなんて照井先輩かわいそうね）

優太が海未にお礼を言われ照れしまい可愛いと思つていたのを6人に見られておりそのうちの1人希はどう優太をからかうかを考えて悪い笑みを浮かべながら優太を見ていたのであつた、

その後希は優太に近づき照れてたやる?と言つてからかかると優太はあたふたしてしまい結局海未にその事がバレ約束どおり顔を真つ赤にしながら破廉恥ですと言われ理不尽な右ビンタを喰らい吹っ飛んだのは言うまでも無い、

こうしてその後にお昼休みの予鈴が鳴つたのでみんなら各クラスに戻つたのであつた、

そして時間は放課後に進む

午後の授業が終わり放課後、sのメンバー達と優太は部室で話しをしていた

アイドル研究部にて現在の、sのランキングをみんなで確認していた、

優(へえー凄いな、sのランキングが50位内にランクインしてるなんてな、これも穂乃果達の努力が生み出した結果だな)

穂(うん!ありがとう優太君でもラブライブに出場できるのは上位20位内のグループだけなんだ!だからもつと頑張らないと!)

穂乃果の返事を合図に残りのメンバー達も(うん!)返事を返した後に何故ここまで順位が上がつて来たのか話してたいた

優（あれだろ？9人に増えてパフォーマンズの幅も増えたし、それに綾瀬先輩と東條先輩が入った事が大きだろな特に綾瀬先輩が入った事で女性ファンがかなり増えたしな）

穂（そうだよね絵里先輩って綺麗だしスタイルも良くて勉強も出来る完璧だよね！）

こ（ことりもそう思うな♪）

優（俺もそう思うスタイルが良くとても可愛いし綺麗だよな綾瀬先輩って）

絵（ちよつと穂乃果 ことり それに照井君もそんな事言わないで恥ずかしいでしょもう！（*・*）ぼっ）

希（ああ〜エリチ〜照井君に可愛いって言われて照れてるやろ〜）

こ（やつぱり絵里も年頃の女の子ね顔を真っ赤にして照れるし）

絵（あ、あたりまえじゃない男の子に可愛いって言われて照れない訳ないでしょからかわないで）

穂乃果とことり+優太に綺麗だと言われトドメを刺された絵里は顔を真っ赤にして照れていたのを希とにこみられからかわれていた絵里であつたすると全くその事に気を止めていなかつた真姫が、

真（今はそんな事より、ラブライブに出場する為の上位20位内を目指すって事は、よりダンスパフォーマンスやファンが多いスクールアイドルのライバルがたくさん

いるわだからもつと頑張らないとね)

凜(ああー真姫ちゃんか珍しくμ s 為にまともな事を言ってるにやー)

真(誰がまともな事を言ってるよ!いつも私はまともな事を言ってるわ)

花(あははま、真姫ちゃん落ち着いてね?、凜ちゃんもからかうような事言ったらダメだよ)

真(花陽がそう言うならわかったわ)

凜(ハアーイ(ω^ω))

海(でも真姫の言うとおりですよ、

では皆さんそろそろ練習着に着替えて屋上に行つて練習をしましょう)

海末の掛け声に1人を除いてみんなは(はい)と返事をしたのだ

こ(あの、みんなごめなさい!

今日もちよつと用事があつてもう帰らないと行けないの(・・・))

練習を始めようと準備をしようとした瞬間にことりが用事があると云つてしまったので驚いていたすると、

に(ちよつとことり!あんた最近練習にも出ないで何してんのよ!

今は頑張りどころな

のよあんた分かつてるの?)

こ(ゴ、ゴ)めんなさい)　ここに厳しい一言を言われ落ち込んでしまったことりそれを見ていた優太が、

優(先輩少しきつく言い過ぎだ、ことりにだつて色々あるんだそれに口を出す権利は俺達には無いぞそれにことり、

今は順位を上げる為に頑張らないといけない大事な時期でもあるからちゃんと出れる時は練習に出ろよ(なでなで)、いいな?)

にここに言い過ぎだと言った後、

しよんぼりしていたことりの頭を優しく撫でながら練習にこれる時はちゃんと来いよと言ってフォローしたそれにたいしてことりは少し顔を赤くしてありがとうとお礼を優太に言った後ももう一度みんな一言ごめんねと言って部室を後にした。

その瞬間他のメンバー達からジト目で睨まれた優

太

優(な、何だ?そんな目で俺を見て俺何かしたか?)

8人(別に何でも無いです)

優(そ、そうか、)

んじゃ俺は先に屋上で待つてるからお前達も練習着に着替えて早

く来いよ)

優太は睨まれた事に質問を返したが何も無いと言われ先に屋上で待つてると伝えて部室を出た優太が出た後8人が着替えながら話をしていた

穂(優太君って意外にお馬鹿さんなのかな?頭を撫でてくれた後何で顔赤くしてるんだって聞いてくるもん本当にお馬鹿さんだよ)

海(穂乃果の意見に賛成です優太はその、かつこいい男の子だと思いますそれを自覚せず普通に頭を撫でてきますし、しかもトドメにどうした顔を赤くしてなどと優しい顔をして言うあれは反則です)

それが理由であり恥ずかしいから海未はビンタをするのであったがそれを理由にビンタをされる優太は少しかわいそうである

花(私は頭を撫でもらった事無いですけど振り付けで分からない所は先輩が一度やってからアドバイスをもらいました。その時はその、かつこいいって思っちゃいました) 凜(凜はねえく照井先輩はお兄ちゃんって感じで思ってるから、

あんまり気にした事無いなにやくけどクラスの子に聞いたら照井先

輩モテモテだったよ)

真(らしいわねちよつと前に、朝偶然に靴箱の前であった時照井先輩の靴箱から来て四週間くらいしか経たないのにラブレターが沢山入っていて困っていたのを見た事あ

るわ)

に(へえ、照井って見た目は怖いのにモテるのね、でも全部断ってるでしょ何でかしら?)

真(さあ、私は興味も無いから知らないわ)

希(うち照井君が何で全部断ってるか聞いた事あるで、なあ、エリチ?)

絵(そうね、少し前に生徒会の仕事で重い物を運ぶのを頼んでその仕事が終わった後に希が聞いていたわね)

6人(何で断ってるの?)

希と絵里は断ってる理由を知っていると、言い残りの6人は希に聞いたすると、

希(何でかって聞いたら、)

優(何で俺が返事を断るかって?)

そんなの簡単だ、四週間とちよつとしか経たないし、それにあまり接した事の無い子にそれで好きですと言われても困るあと、俺は恋愛事が苦手だなあまりしたいとは思って無いから、丁重に断ってる、それに、sのみんなや町を守る事が優先だから、そんな暇無い)

やって照井君はそう言ったんよ)

6人はそれを聞いた瞬間少し沈黙してしまつた後に思つた事を言った

穂(それであの破壊力は反則だよね他の子達もその理由で断られたらショックだろうねえ)

海(そ、そうなのですか、私は優太見たいな真面目で優しい人なら付き合つて見たいなとは思いますが(ボソボソ)) 海未に關しては何故か最後に言つた言葉が小さすぎて聞こえなかつた

花(照井先輩つて恋愛事絡みは苦手何て意外ですねおまけに私達を守る為にそんな事をしてる暇無いなんて何か悲しいですし)

凜(そうだね照井先輩つて不器用だね凜達や他の人達を守る為に恋愛事が苦手なんて) 照井先輩かっこいいのに残念にや)

真(まあいいんじゃない?、あの人のとつて今は私達を守つてこの学院や町を守る事で精一杯何でしょう?)

に(でもそれにしたつておかしいと思わない?)

あいつどう考えてもかなりのイケメンに分類される奴よそれを他の生徒達からのラブレターを全部断るのもある意味凄いわ、1人ぐらい気になる子がいないのかしら照井つて?)

希(確かにうちの学院は一樣女子校だからね1人ぐらいは気になる子とかはおる

ちやうかなあ〜)

絵（とりあえずその話は又ことりも入れて9人で話しましょうよ、それにそろそろ行かないと照井君怒るわよあの鋭い目付きで睨まれるのわ私怖いから嫌よ）

8人は優太が何故あんなにも鈍感で恋話などに興味が無いのかを話しながら着替えていたのであつた、そんな話を長くしていたら絵里にそろそろ行かないと言われ急いで、着替えて屋上に行ったが30分近く待たされていた優太は軽く睨みながら遅い！と言つた後8人は少し後ずさりした後ごめんなさいと謝つたそして屋上での練習は始まつた

ことりを除く8人のメンバーはダンス練習を優太に見てもらいながら練習を開始して少し経つ屋上、

優（ワン、ツー、スリー、フォー 穂乃果どうした少し動きが鈍くなつて来たぞもうばてて来たか？）

穂（大丈夫だよ全然まだ行けるよ！）

優（よしその意気だ、それと星空！少しみんなより早いぞもう少し周りを見てみんなに合わせろ！、海未どうした動きが少し遠慮しがちだぞもつと遠慮せずに自分を見せるんだ）

凜、海『はい！』

に（二人共もつとしつかりしなさいよ）

優（そう言ってる矢澤先輩はステップ間違えてるぞ気をつけて）

に（わ、分かってるわよ）

こうしてみんなは優太にリズムをとってもらいながら練習していたそして

優（よし！みんな大分良くなってきてるぜこの調子だ！、んじやとりあえず10分休

憩だその後はもう一度ステップの確認をして今日は終わりだ）

8人（はい）

こうして一旦練習をストップし休憩を挟んだのであったそして休憩をしている時に、
にこと花陽がメンバーと優太にある質問をしてきた

花、に（みんなは秋葉原伝説のカリスマメイドのミナリンスキーって知ってる（ますか）？）

優、海（秋葉原の伝説カリスマメイド？何だそれ（何ですかそれわ））

穂（私も初めて聞いたよ何なのそのカリスマメイドさんて？）

凜（全然わかんないにやゝ真姫ちゃん知ってる？）

真（私に分かるわけないでしょ！）

希（伝説のカリスマメイドかあゝどんな子なん？）

絵（希が言った様にそのメイドさんの事気になるわどんな子なのここに）

にこと花陽に質問されたみんなは誰もミナリンスキーを知っていなかったので絵里と希にどんな子なのか聞かれてとりあえず説明を少しした、そしてその説明が終わった後優太が口を開いた

優（簡単にまとめると、接客対応が完璧で美少女のメイドがミナリンスキーつて子なのか、んで？小泉と矢澤先輩はまだ見た事無いってことでいいんだな？）

花、に（ええ（はい））

優太が花陽とにこにミナリンスキーの事を教えてもらった後どんな子なのか聞いたら見た事がないと言う事だった、

穂（へえく花陽ちゃんやにこ先輩でもあつた事無いんだあ）

海（そうですね一体どんな子なのでしょうか？）

凜（凜もそのミナリンスキーさん見てみたいにや〜）

真（私も少しだけ興味あるわそのメイドに）

希（うちも興味あるわあ〜）

絵（伝説のカリスマメイドね、確かにどんな子か見てみたいわね）

優（まあとりあえずその話は又練習が終わった後に、、）

花陽とにこ以外の6人はミナリンスキーの事を考えていたが優太が練習が終わった後にしようと言いかけた瞬間小さい飛行物が優太の所に来た、

? (P p p . . .)

優(ん?バッドショットまだこの時間は町を見回ってくれてはいるはず、まさか! ドーパントが出たのか☒)

優太がバッドショットと呼んだ物は音ノ木坂に来る前にフィリップにもらったメモリガジェットの一つだマグマとの戦いの後に放課後は町を毎日見回ってもらっていたのだが今日は、

戻って来る時間が早いのはドーパントが来た事を優太知らせるためだったのでバッドそうだという様に縦にボディをふったそれを見た優太は、

優(悪いみんな! neoの奴らが動き出した見たいだ町の方にドーパントがいる、、俺はドーパントを倒し行くだからお前達はもう練習を切り上げてみんな帰れいな?)

海(分かりました優太ですが、絶対に無理はダメです、それと怪我をしないでくださいね、その心配なので、モジモジ)。*)))

少し顔を赤くして言った海未に優太はわかったと言って頭を撫でた

穂(海未ちゃんの言った通りだよ!無理はダメだからね)

花(せ、先輩頑張って下さい!)

凜(照井先輩!振り切るぜだにや!)

真（照井先輩まあ〜とりあえず無理せず頑張つて下さい）

に（怪我せずに帰つて来なさいよ私達を守る仮面ライダーさん！）

希（うちもみんなと同じやで無理はあかんよ照井くん）

絵（生徒会長としてみんなを必ず無事に帰すわだから安心して行つてきて照井くん）

優（みんな、ありがとう行つてくる！後綾瀬先輩にこれを渡しときます）

みんなに行つてくると言つた後優太は絵里にメモリガジェットの一つスタッグフオンを渡した

絵（これは？）

優（俺が師匠達からもらつた俺をサポートしてくれるアイテムの一つだもしドーパントに遭遇してしまつたらその擬似メモリをそのスタッグフオンに刺せば変形して君達を助けてくれるしその間は少し時間は稼げて逃げられると思う）

絵（分かつたわありがとう）

絵里はスタッグフオンを受け取りありがとうと伝えた後優太は屋上から下に降りために扉に走つていたそして振り返らずに左手をあげサムズアップした後すぐに姿を消したのであつた。

海（優太、どうか無事で）

穂（大丈夫だよ海未ちゃん！優太君は仮面ライダーさんなんだよきつと大丈夫）

海未が優太の事を心配していたのを見て穂乃果が大丈夫だと言い海未を励ましたのであった、

それを見ていた穂乃果以外のメンバーは海未は優太の事を、と思っ少し顔がニヤニヤしていたのは秘密である

そして時間はバッドがドーパントを見つけると少し前に遡る

ある道をメイド服を来た1人の女の子が歩いてた

? (うん♪これで店長さんに頼まれた買い物が終わりましたもう暗くなつて来たし早くお店にもどらなきゃ!)

そう言つてそのメイド服を来た女の子は急いで走つていたするとneoの刺客の1人ローチが、そのメイド服を来た女の子の前に立つて問いかけた、

ローチ(ぎびひお前が今噂になつてゐる伝説のカリスマメイドミナリンスキーであり南 ことりだなひひひ)

ローチはミナリンスキーと呼んだ女の子の本当の名前を呼んだのであつたそれを聞いたミナリンスキーは驚いてこう言つた

ミナ(ど、どうして私の事を知つてゐるんですか?、まさか貴方は優君が言つてたneoつて組織の人☒)

ローチ(そうだ俺の名はローチこの四週間お前を観察していた、ただ1人だけお前は

練習に参加せずにバイトをしている見ただったからなおまけにアクセルとは別々だ、だから俺は先にお前を消す為にこうしてお前の前に出て来たのさ)

ミナリンスキーの正体は何とことりであった、

それを目をつけたローチはこの四週間何も行動を起こさなかったのだそれ聞いたミナリンスキーこととりは危ないと思いき走って逃げたのであった。

ローチ(ひひひ逃がすか!) cockroach!!?

ローチは逃げたミナリンスキーを見て不気味な笑みを浮かべ自分の称号と同じメモリを足に刺しゴキブ、ローチ(ゴキ○リ言うなcockroachと言え) 天の声(え、あはい失礼しました) なぜかローチにも変にばれてしまった天の声である、

とりあえずゴキ○リではなくcockroachドープアントになったローチは低級ドープアントのマスカレードを呼び出しミナリンスキーを追いかけたのであった。

それを見回ってくれていたバッドが目撃し急いで優太の所に飛んで行ったのだ、そして今に戻るcockroachドープアントに遭遇したミナリンスキーは走って逃げていたが行き止まりの場所に入ってしまった絶対絶命のピンチを迎えていた

ミナ(ど、どうしよう!?!? T、Tもう逃げ場が無いよ!)

ローチ(ふふもう逃げ場は無い安心しろお前を消したらお前のお友達もみんなすぐに消してやるよひひひ)

ミナ(そんなの絶対に駄目!お願いしますやめて下さい!)

ローチに自分を消した後にミナリンスキーであることりの友達も全員消すと言った事にやめてと叫んだ。

ローチ(悪いな、俺もお前個人に恨みは無いだがボスのしようとしている計画にはお前やμ、sの他のメンバーそしてアクセルは邪魔だ!、だから最初にお前から消えろ南(ことり))

ローチはことりを消そうと近寄ってきたそれを見た瞬間ミナリンスキーではなく南(ことり)として叫んだ

こ(嫌だよ怖い、、 助けて!お母さん、穂乃果ちゃん、海未ちゃん、優君、凜ちゃん、花陽ちゃん、真姫ちゃん) にご先輩、希先輩、絵里先輩お願い誰か助けて!)

ことりは自分の母親と友達や後輩そして先輩達の名前を叫んで目をとじ覚悟した瞬間、

ゴキ!!?ローチはいきなり上からふって来た人物に蹴り飛ばされたすると 何故蹴り飛ばされたかを確認しようとする

ローチ(ば、馬鹿な何故貴様がここにいるアクセル!!?)

ローチは信じられないと言わんばかりに叫んだ、それを聞いて目を開いたことりは自分を守る為に前に立って来ていたアクセルを見て安心してしまい涙を流しながら

ことり（優くん！よかった優くんが助けに来てくれた、グス、グス）
そう言っただけは泣いてしまいその場から動けなくなってる居た

優（ことり怖い思いをさせてしまっただけに、けどう大丈夫だ絶対にこいつらからお前を守る!!?）

そう言っただけ後アクセルに変身している優太は殺気立って怒っていた当然だろう自分の大事な友達を傷つけようとしたあげくに、助けに来たのがギリギリだったせいできりを泣かしてしまっただけに自分に自分を情けないと思っただけだった。

優（お前ら！よくもことりを怖い目にあわせたな悪いが俺はお前らをぶった斬る!!?）　そう言っただけアクセルになっている優太はエンジンブレードを構え走り出した

ではことりの前に何とか間に合っただけ現れたアクセル何故ギリギリで現れたかを説明する為に少し前に時間を戻そう

優太が学院を出て少しあったある道、

優太は今バッドに急いで道案内をしてもらっていた

優（バッド!!?このまま走って探しても間に合うか分からない！とりあえず見渡しのいい場所までの最短距離を案内しろ！）

そう言っただけバッドは返事をする代わりに小さいボディーを縦に振り道を案内した
こうして優太は一番の最短距離を走って15分程過ぎたころガジェットメモリの1

つスパイダーシヨックを使い見渡しのいいビルに登り町を見渡ししていた、

優（何処だ！何処にいるだ急がないと襲われている人が危ない！）

そう叫んで町を見渡ししていた時　？（どうしよう!!?もう逃げ場が無いよ）と声
が聞こえた

優（今叫び声がどこだ、居た！ん？あれは、まさか!!?）

ことりが襲われているのかまずいあの場所に間に合う為にはこれしかない！）

優太はドーパントに襲われている人物がことりだと分かり急いでメモリを出しドラ
イバーを腰に装着したそして

優（待つてろことり絶対に助ける!!? a x e e 1 !!?、変つ、、進つ a x e e 1 !!?）

優太は迷う事なくアクセルに変身し言った

ア（仮面ライダーアクセル、さあ振り切るぜ!!?）

決め台詞を叫んだ後アクセルはドライバーを外し両手で掴んだするとアクセルは一
瞬でバイクになった　そうこの姿はアクセルのもう一つの姿バイクフォームである

！

バイクフォームになったアクセルはものすごい速さでビルを駆け下りこつりのいる
場所までビルとビルの間を飛んだそしてその場所の上空でバイクフォームを解除し落
下しながらこつりを襲おうとしている c o c k r o a c h に飛び蹴りを入れた瞬間バ

ク転をしながら着地しことりの前に守る様に立った

これが今の時間より少しの出来事だ、では今現在に時間を戻そう

現在アクセルに変身した優太は恐ろし程に殺気を出しながらエンジンブレードで容赦無くマスカレード達を縦に斬ったり、横に切ったりしていたザシユ、ズバツ！、グシユ
!!?

ア（さっさと消える俺はお前から見たいな低級ドーパントに構ってる暇なんて無い！これで決める（axelimumdriVe）、そしてあのゴキ○リ野郎をぶった斬る）

鬼気迫るアクセルに次々と倒されるマスカレード達だが数が多すぎるせいかアクセルはmaximumを発動させてマスカレード達にアクセルはバイクフォームになり炎を纏って突進したそれを食らったマスカレード達は耐えられるはずも無く爆散した後バイクフォームを解除した後、cockroachに叫んだ、

ア（後はお前だけだゴキ○リ野郎!!?）

アクセルはcockroachをゴキ○リ野郎と言ってエンジンブレードを向けたするとcockroachは反論して来た

ローチ（違う!!?ゴキ○リって言うな！cockroachだこのガキめ!）

ア（うるさい！言い方を変えたただけだろうがこのクズ野郎!!?）

cockroachドーナントはゴキ○リと言われ切れていたそしてアクセルは問答無用でエンジンブレードを斬りおろしたがしかし!

ア(ガツキン!、な!消えた!)

アクセルはエンジンブレードを斬りおろしたところにはcockroachは立っておらずアクセルは周りを探した瞬間強烈な拳が顔を直撃した

ア(ゴキ!!?、ぐあ!!?何だ、そうか!見えないんじや無く動きが速すぎての目で追え無い上に反応が出来ず俺は殴られているのか!)

アクセルの仮説は正解だったあのゴキ○リをcockroachと名前を変えただけだがあのゴキ○リは元々信じられないくらいの速さで走るのだその力を駆使してアクセルを翻弄していた、

ちなみ本来ならcockroach程度なら普通に難なく倒せるアクセルだがそれは竜が変身していればの話だ、優太はまだ変身して浅い上にドーナントとの戦闘経験があまり無いせいでアクセルメモリの力を十二分に発揮出来ていないのである。

ローチ(ほう?もう気づいたか、だがこの速さでは変身して力が強化されているお前でも追えまいよ!)

アクセルは殴られた瞬間に消えたのでは無く高速で動いている事に気づいたのだがcockroachの言った通り目で追えるスピードでは無いので何発も殴られ苦戦を

強いられていた、するとそれを見ていたことりが叫んだ

こ（優君！）

ことりは優太の名前を叫んだ後近寄ろうとしたがアクセルに変身している優太に（来るな！）と言われ足を止めた、だがアクセルに変身しているとはいえcockroachの攻撃をまともに喰らい続けているアクセル、ダメージが限界に達すると強制解除になる為アクセルは少し焦っていた、

ア（ちい！）どうする奴の動きが速すぎるせいでまともに攻撃を当てられ無い、いや落ち着け俺、こんな状況こそ冷静なれ！ふう〜）

アクセルは焦っていた自分に喝をいれ仮面の中で目を閉じ精神を集中させエンジンブレードを突き出すように構え全神経を研ぎ澄ませた　それを見たcockroachは、

ローチ（ははは何だ俺に攻撃が当たらないからやけになったか！）

ローチに笑われようと全く聞かず精神を研ぎ澄ませているアクセルそれを見て気に入らなかつたcockroachは殺気を出し、

ローチ（ムカつく奴ださつきとお前を殺して南　ことりを消すこれで終わりだアクセル！！？）

cockroachはそう言ってアクセルに高速で近づいたその瞬間ことりは優君

と叫んだ、精神を研ぎ澄ませていたアクセルはその殺気を感じその攻撃を避けて
 c k r o a c h の腕を左手で掴んだそして、

ローチ (何☒馬鹿な)

ア(ふうー以外にうまくいったな殺気を出してトドメを刺そうとしているお前の気配
 がよくわかったよ案外気配を感じて避けるのも無駄では無いな、さあーこれで終わり
 にしようぜゴキ〇リ野郎!!?)

アクセルは c o c k r o a c h の腕を左手で掴んでいる状況で右手で構えていたエ
 ンジンブレードのトリガー押した e n g i n e m a x i m u m d r i v e ! エンジン
 メモリのマキシマムを発動させたアクセル、

そしてエンジンメモリのエネルギーを集めたブレードの刃が吸い込まれるように腹
 部に直撃させた瞬間、

ローチ (があ!!?中々やるなだが甘いぞアクセル!!?うらあ!!?)

ア (何!ぐっ!)

c o c k r o a c h はそう言ってエンジンブレードを腹に喰らった瞬間アクセルの
 左足にローキックを入れ体制崩した、

そのせいでエンジンブレードでの m a x i m u m は完全に決まらず腹を少し切り裂
 いたがそれなり効果はあったらしくお互いとはつさに距離を取る為にアクセルはこと

りを守る様に後ろえ飛びcockroachは壁側では無く道側に飛んで距離を置いた、

ア（ふん！中々やるゴキ○リ野郎!!？）

ローチ（ふんお前もやるな小僧だがこれ以上騒ぐと他の奴らに見られるかもしれんな悪いが、又近い内お前と南　ことりは先に消してやるよじやあな！）

ア（んな!!？何を身勝手な事を今すぐお前を倒し、ぐっ！）

ローチはこれ以上騒ぐと事情の知らない一般人が来て騒ぐかも知れないといい、又近い内にことりと優太を先に消すと言つて姿を消したそれを聞いたアクセルは今すぐにも倒すと言おうとしたがcockroachに受け蓄積されていたダメージが大き過ぎた為か片膝をついてしまいその瞬間変身が解除されてしまった、

それを見たことりは急いで優太に近づいたが優太の姿を見て驚いてしまった、アクセルに変身していたがダメージをかなり受けてしまい頬は切れて血が出ていたり腕からも軽く血が出ていたとありあえずことりは応急処置をしながら優太に言った

こ（優君ごめんね私を守ろうとしてくれてたのに怪我させちゃって、グス、グス）
そう言った後ことりはまた泣いてしまったそれを見た優太はあたふたしてしまいうしよとか一瞬迷つたがとりあえず、落ち着かせる為に優しく頭をなでてあげながら優太は言った、

優（だ、大丈夫だ！だから泣くなほら、な？仕方ないほらぶべえ（変顔中））

ことりを笑わせる為に変顔をした優太それを見たことりは泣くのをやめクスクス笑って笑顔を取り戻した

こ（あはは変な顔ありがとう優君少し落ち着いたよ）

優（そうかそれは良かった所で、何故メイド服を着ているのか教えてもらっても？）

こ（えつと、あのですねえこれはその、（もじもじ））

優（ことり？）

優太は笑顔を見せたことりは何故メイド服を着ているのかを質問し

たが何故かもしもじしながら言葉を詰まらせてしまい黙ってしまったそれを見た優

太はことりと名前呼んでも、もじもじしたままだった、

すると優太はメイド服の姿をもう一度見てにこと花陽が言っていたカリスマメイ

ドの事を思い出しもしやと思いいことりでは無くもう一つの名前で呼んで見た

優（んじや呼ぶ名前を変えよう初めましてカリスマメイドのミナリンスキーさん）

優太はことりでは無くミナリンスキーさんと言ったすると、

こ（つつ！何でわかったの優君私がミナリンスキーだって、あ！やつちやつた）

ことりは優太にカマをかけた事には気づくのが遅れ自分がミナリンスキーだと

言ってしまったそれを聞いて少しため息をついた優太が話しかけた、

優（やつぱりか矢澤先輩や小泉から聞いていたんだ秋葉原に伝説とまで言われているカリスマメイドミナリンスキーの事を、

それでここ最近のことりの行動とその姿を見てももしかしたらと思つてカマをかけたけど正解だった見たいだな、何でみんなに黙つてメイドの仕事を？教えてくれないか、安心してくれもちろんこの事は海未や穂乃果達には絶対に話さないから聞かせて欲しい）

こ（優君、うん全部優君には話すねだけどその前に私がバイトをさせてもらっているメイド喫茶の所まで一緒に行つてもらつてもいいかな？、店長さんに頼まれてた物を買つて帰る途中だったから、）

優（わかつたそれじゃ行こうか）

こうして優太はことりに事情を聞くためにとりあえずバイト先のメイド喫茶に向かつたそして到着した後、店長さんは帰りが遅かつたことを心配してくれていたことりはドーパントに襲われたとは言えないので変な人に絡まれたところを友達に助けてもらったんですと言つてその話は終わった。

その後店長さんの計らいでことりは早めに切り上げられたので優太が家まで送り届けている途中に何故ミナリンスキーとしてメイドをしているのかを全て優太に話したのだったそれを聞いた優太は、

優(そつかそれが理由でメイドの仕事を、そのなんだことり俺の思った事を言ってもいいかな?)

こ(う、うんどうぞ)

優(そんなに思いつめる事は無いよ俺は穂乃果や海未とは違いことりとはまだ一カ月ちよつとの友達だけだな、俺はことりには何も無いなんて絶対に無いし絶対にことりには出来ない事がある、それを俺はまだ一カ月ちよつとしか立たないが一緒に学園生活を送っていて思うだから自分には何も無いなんて言うなよ、

それに一番の親友で幼馴染の穂乃果と海未がそれを聞いたら絶対に俺と同じ事を言うよきつと)

そうことりがメイドのバイトをしたのは穂乃果や海未とは違い自分には無いもないと思つて悩んでいたらしくそんな時にメイドのバイトを始めいるらしいがいまだに何もつかめてないと説明したことりに優太はそんな事無いと言うがことりは首を横に振り言つた

こ(ううん違うよ穂乃果ちゃんにはみんなを引っ張つていける力があるし海未ちゃんも、s曲の歌詞を作ってくれてそれに文武両道なんだもそれに優君は目付きは少し怖いけどすごく優しくてなんでも出来るけど私は、(ビシッ!)ちゅん☒もう痛いよ(優君)

ことりは自分には何も無く逆に穂乃果や海未そして優太にはある物を話していたら優太がおでこにデコピンをしたのでおでこをさすりながら痛いと言ったすると優太は

優（ばあーかそれはこたりの考え過ぎだ、

確かに穂乃果はあの元気の良さやると決めたら絶対にやる行動力があるからみんなも付いてくるし逆にそのお陰で振り回される事もある、海未はμ'sの歌の歌詞を作ってるうえに文武両道だけど恥ずかしがり屋ですぐに俺を引つ叩く所もあるかけどな、

あの2人にも短所と長所があるしだからことりにはしかない物は絶対にある！だからそれ以上自分には何もないなんて言ったら怒るぜことり）（ナデナデ）

そう言った優太は優しくこたりの頭を撫でてあげたその後ことりはありがとう一言だけ言ったがやはり思い悩んでいた、とりあえずもうすっかり周りは暗くなっていたので話をきりあげてことりを家まで送り届けてあげた後、優太はベッドを呼びしばらくはこたりの事を守って欲しいと命令をした後優太も家に帰った。

優太の自宅、

ことりを送り届けて家に着いた優太とりあえず荷物を置きソファアに腰を下ろした瞬間自分のスマホが鳴ったので見たがその瞬間固まってしまった優太、

優（しまった、海未や穂乃果それに他のメンバー達からのLINEがすごい事になっ

てる、色々あったから連絡を取れてなかった俺が悪いしとりあえず大丈夫だと返事しておこう)

優太はとりあえずメンバー達には大丈夫だと返事をしてその後は戦った疲労もあった為すぐに横になって眠ったのであった、

そして次の日の朝スマホが鳴りその音で目を覚ました優太

優(んあゝなんだこんな朝早くから電話か、ん?海未からか、もしもし優太ですどうした?)

海(あ!優太、もしもしではありませんよ!今日は学校に来ないのですか?)

優(学校か?、もちろん登校するよなんだそんなに慌てて何かあったか?)

海未からの電話に出た優太しかし海未は何故か慌てていたのかどうか聞くとどうやらスピーカーにしていたらしく穂乃果が大きい声で言った、

穂(優太君!何してるのもう後10分もしたら授業始まっちゃうよ!)

優(何言ってるんだまだ6時まえだ、え!8時15分だとまずい寝過ぎたあ!)

海(もう何をしているのですか優太!とりあえずお説教は学校に着いたらしますので早く来て下さいね)

優(ええー結局学校にいたら説教するんかい!?!、ってかそんな事を言ってる場合じゃねえ早く支度しねえと)

どうやら優太は昨日受けたダメージもあつてか疲れ果てて爆睡し完全に寝過ごしていた所に海未が電話をかけたおかげで何とか目が覚めて時間を確認したらねすごしていたそこからは案の定急いで身支度を整え食パンを一枚口にくあえて走り出した、がしかし後10分しか無かつたので優太が遅刻をしたのは言うまでも無い、そして朝の最初の授業が終わつた休み時間、

優太は海未にお説教されていた

海（優太！あなたは何をやっているのですか朝は寝過ごして遅刻するわ、昨日の約束をやぶつて怪我をしているし、遅刻の事はいいですけど何故頬と腕に傷を負つたのかをきちんと説明してもらえますね？（ギロ）

優（うっ、いやそのおくだな、おい穂乃果た、助けてくれ海未の目が怖い何であるなに怒ってるんだよ（・・・））

海未に睨まれてしまい一瞬怯んでしまった優太そこで穂乃果に助けを求めたが、

穂（私は知らないもん、海未ちゃんが怒るのも当然だよそんな怪我したらねえーだから優太君少し海未ちゃんに痛い目合わせてもらつてね）

優（なっ！穂乃果お前!!？うっ、ちよつと待て！わ、わかつたから海未そんな今にも泣きそうな顔で睨むな！ちゃんと説明するその前に少し待つてくれ、ことりちよつといいか？）

こ（うんいいよ）

優太は事情を言う前にことりにミナリンスキーである事を伏せておき襲われた事を説明してもいいかを確認する優太するとことりはいいよと、返事をしてくれたので穂乃果と海未にミナリンスキーである事を伏せておき昨日起きた事を全て話したのであつたすると、

海、穂（ことり（ちゃん）大丈夫だったの！）

こ（うん凄く怖かったけど、優君が助けてくれたから無事だったよ）

海（そうでしたかそれで優太は怪我を、その優太ありがとうございますことりを助けてくださって）

穂（穂乃果からお礼を言わせて欲しいな、ありがとう優太君ことりち やんを

助けてくれて）

優（いやドーパント達からこの町やお前達そして学院を守るって約束したからな、けど3人に謝らないといけない事がある）

3人（はい？）

優（まずは穂乃果と海未だ実はことりを助けるのがギリギリだったんだそのせいでことりに怖い思いをさせて泣かせてしまった、お前達2人の大事な友達に涙を流させてしまつて本当にすまない、そしてことり今も2人に言ったが助けに来るのが遅くなつて

本当にすまなかつた)

3人にすまないと謝り頭を下げた優太それを見た3人は慌てて優太に顔を上げてもらい優太にお礼をもう一度言いそれで話しは終わった、

そして午前中の授業が終わりお昼休みになったので中庭でお昼をとる為に集まったμ、sの一年生組と三年生組にも怪我をしている事がバレてしまい怒られた優太であつた、

そして放課後アイドル研究部部室にて、

この日もことりは用事があると言ひ先に帰つたので現在優太を入れて9人はここに(秋葉原である特訓をするわよ)と言われたのでみんなで秋葉原まで向かつたのであつた、

秋葉原にて、

秋葉原に着いたμ、sの8人と優太、μ、sのメンバーはここにあるものを渡されそれを着て秋葉原の中心部に立っていたみんなすると、

穂(あ、暑い、こんな格好をして立ってるなんて不審者だよね?私達)

優太とことりを除いて8人はもう6月の中間なのにサンングラスとマスクをしておまけにコートまで着て秋葉原の中心部の場所に立っており通行人達から変な物を見る目で見られておりそれにたいして穂乃果は不審者だよねと言う質問に、ここ以外はうんと

言い同意したそれを見ていた優太は顔を引き攣らせながら大丈夫か?と声をかけたすと、

海(私も今回は穂乃果の意見に賛成ですそれと優太!全く大丈夫では無いですよ見て分かるでしょう!)

花(そうですねよ照井先輩、だ、大丈夫じゃ無いですよ)

凜(そうだにやーこんな暑い中コート着てるなんてバカだにや!!?)

真(本当に何のこの特訓イミワカンナイ!矢澤先輩ちよつと頭おかしいし馬鹿よ)

に(何が馬鹿よ!これもアイドルになるためには必要な事なのよ!)

優(いや、矢澤先輩これはちよつと違うと思うぞ、それにもう6月だぜコートなんか着て秋葉原の中心部の所に立ってたら熱中症になってしまおうし、不審者に見られしまうからその格好はやめた方がいい)

希(そうやでえー照井君言う通りや、にこちちさすがにこれはアウトや)

絵(照井君と希の意見に賛成よ、にこちよつとやりすぎよ)

優太と絵里と希に言われたにこは少し意地を張り嫌だと言ったが花陽が暑さで少し体調を崩してしまったので渋々分かったと言った、

優(小泉大丈夫か?)

花(だ、大丈夫ですちよつと暑さでふらついてしまっただけです)

真（何言ってるの花陽軽い熱中症よ少し水分補給と涼しい場所で休ませてあげないと）

に（ごめんね花陽私のせいで）

花（き、気にしないで下さい先輩！これぐらい大丈夫です）

優（とりあえず矢澤先輩はもう少し気をつけてもらおう事と小泉はとりあえず水分補給はしないといけないから、すぐに近くにコンビニあったな俺が飲み物買って来るよついでに小泉以外のみんなも飲み物はあるか？）

穂、海、凜、真、に、希、絵（お願いします）

優（了解んじや買ってくるよ）

優太は花陽以外のメンバーにも飲み物はあるのかを質問したらお願いしますと言われ了解と言いコンビニまで飲み物を買うに行き、花陽とみんな分をすぐに買って来て渡したその後少し休んで体調が良くなった花陽、にこの提案したコートきて立つという謎の特訓は中止になりまだ帰るには時間があつたので花陽とにこの提案でスクールアイドルグッズショップに行く事になった

そしてスクールアイドルグッズショップの中、

優太と8人はお店の中に入り色々見ていたすると

優（おい！これってお前達のグッズじゃないか？）

穂（本当!どこどこ?）

優太がμ sのグッズを見つけたので穂乃果どこどこと言いつ探したするとそのグッズを見つけた穂乃果達は喜んでいた

穂（これ花陽ちゃんだよーすごい）

花（私達μ sのグッズがおいてもらえているなんて感激です!）

凜（でも何か照れるにや〜）

真姫（そうねけど張り紙には人気急上昇中のスクールアイドルってあるはそれだけ私達注目されてるのね）

に（こんなに嬉しい事は無いってやつよもう私死んでも良いくらい幸せよ!）

希（何言ってるん、にこっちまだまだうちらはもっと高みを目指していくんやからね）
絵（そうねけどやっぱ嬉しいわこんなにも私達の事を応援してくれている人がいるなんて）

海未は自分のグッズがあつたせいで顔をトマト見たい赤くして照れていたのを除いてみんなは喜んでいたすると穂乃果が自分達のグッズにもう1人プラスでグッズが売られているのを見て驚いた

穂（ねえ!みんな）

優、海、花、凜、に、希、絵（どうした（の））

穂乃果が声をあげてみんなに尋ねたのでみんなは返事をしたすると穂乃果は、

穂（優太君の写真や缶バッチとかも置いてあるよ）

優（な、な、何だと!!?）

海（あ、本当ですね、ん?何か説明文もありますよ）

希（えつと何々 μ 、sのメンバーをサポートしてマネージャーをしているイケメン美少年の照井 優太君 μ 、sの活動ブログにて挨拶動画を載せてあったのを見た人たちからは、そのクールな見た目がカッコよすぎると人気を集めおり今では μ 、sファンの中には照井ファンも増えているとの事です、やって良かったね照井くんうちらと同じでファンが出来たやん♪）

優（……）

花凜（照井先輩がフリーズしました（にや〜））

希（あらら以外にもそんな反応するんや照井君って）

真（良かったですね先輩）

に（へえー以外にウブね照井も）

絵（あはは、けどどうの本人はすごい顔をしてフリーズしたままよ）

穂（いつも冷静な優太君がここまで動揺するなんてびっくりだよ）

海（優太〜大丈夫ですか?完全に意識が別の所に行った感じですねもう、戻って来て

ください!バシ)

自分の写真がありおまけに自分なんかファンがいる事に頭がついて行かずフリーズしていた優太を海未がピンタをしてハツとなる優太すると

優(いつて!何すんだ海未痛いだろう!)

海(優太がフリーズしていたから目を覚まさせたのですよそれより良いのですか?)

優(何がだ?) 海(貴方の写真ですよ優太)

優(は!そうだったおい!店員何故俺の写真なんか置いてある今すぐどかしてくれ!)

店員(お客様それは出来ませんこれは貴方のファンになってくれた方や、sのファンの方達からの依頼もあったのでさせてもらいましたのでそこは、すいませんが了承下さい)

優(そんな、馬鹿なぜもう絶望が俺のゴールだ!) ガク

海(でも優太良かったですねこれで私達と一緒に人気になったのですから元気出して下さいね?、ナデナデ)

だが何故に優太の写真が出ているのか、それは又の機会にお話ししましょう

優太は自分の写真がある事に酷く動揺してしまいショップの店員に自分の写真をどかして欲しいと頼んだが断られてしまい膝について倒れた優太を励ましながら頭を撫

であげた海未すると優太は顔を赤くして、

優（ありがとう海未それと何故俺の頭を撫でてるんだ？ 恥ずかしいからやめてくれ……）

海（あ、そのすいません優太がよく頭を撫でてくれたので真似をしてみました、うふ優太でもそうやって照れる事もあるのですね）

優（あたりまえだ！ 俺だつてそんなこと事をされたら照れるさ）

優太と海未のやり取りを見ていた他のメンバーはにたにたしながら2人を見ていたがその後すぐに聞き覚えのある声が聞こえてきたのであつた

？（すいませんここに私の写真があるつて聞いたのですが、勝手に置かれては困るんです、お願いします、すぐに外して下さい）

優太が海未に撫でられて照れていたその横で店員さんに写真を外して欲しいと言っていたメイド服の少女だがそれを見た優太以外のみんなは、

8人（ことり（ちゃん）（先輩）？）

？（チユン☒）

優（はあータイミングが悪いな、ったく）

なんとメイド服を着ていた子はことりだったので優太以外の4人のみんなは名前を呼んで驚いていたが優太はタイミングが悪いなと口に出していた。すると自

分の格好を見られ焦っていたことりはお店の横にあったガチャガチャのキャップを眼鏡のつもりなのか急いで両目に付け言った

こ（ハイ？コトリちゃんツテ、ダレデスカ？ワタシハコトリトイウナマエデハアリマセーン、）

穂、凜（わあく外国人だあー（にやー））

真（そんな訳無いでしょあれはどう見てもことり先輩よ）

ことりは誤魔化せるつもりでいたらしく他人のふりをしていたがもう間が持たないと思っただとか、

こ（デハミナノシユウクルシユウナイ、サラバダ〜！）　そう言っことりはみんなの前から逃げ出した

それを見ていたみんなは急いでことりを追いかけたのであったが優ただけ少しみんなより遅れたが、

優（悪いなみんな俺ことりの味方をする！）

8人（え？）

優太はそう叫んだ後ことりのそばまであつという間に走り追いついた優太すると、

こ（きゃ？！？ゆ、優君何してるの？）

優（何っっておまえをバイト先まであいつらに捕まらないよに途中まで連れて行く！だ

からしつかり掴まつてろよことり)

こ(う、うん! ありがとう)

そう言つて優太はことりをお姫様だっこをして、sの8人から逃げていったそれを見ていた8人は、驚いており口をあけたまま突っ立っていたがハッと我に返り急いでことりを抱き抱えた優太を追うのであつた、

穂(ひよえー優太君つてすごいねえ、ことりちゃんをお姫様だっこしながらあんなに早く走れるなんて)

海(穂乃果! なにを呑気な事を言つてるのですか普通は人を1人抱き抱えているのに私達が追いつけないなんておかしいですどんな体力してるんですか優太!)

海末の声聞いてたのか優太は返事をした

優(悪いな海未、俺は仮面ライダーとして翔太郎さんと父さんに嫌という程に鍛えられたからなこれぐらい全然余裕なんだよ、悪いがみんなを振り切るぜ!!?)

そう言つて優太はよりスピードを上げて走り出しておりどんどん距離を離れていくが1人だけ優太に追い付きそうになっていた子が1人だけいた。

凜(ことり先輩、照井先輩待つんだにやー!!?)

その1人とは、sのメンバーで一番運動神経のいい凜だった、凜は後1メートル近くまで2人に近づける距離まで追いついていたそれを見た優太は、

凜（これで捕まえられるにや!）

優（甘いぞ星空!!?それとことり少し危ないからしつかりスパイダーショックをつけた腕を掴んでおけよ!!?）

こ（それってどう言うい、きや!）

凜（にやにや!!?）

優太は後少しで捕まりそうになった所で、ことりの腕にスパイダーショックをつけ数メートル以上先までスパイダーから糸を出させ飛ばしことりを移動させたのを確認した後優太は、近くにあつたイスを台にしてバク転を決めて凜から捕まるのを避け凜の腕を捕まえてことりを追えないようにした。

その後は優太はことりに後は一人で行け!!?叫び行かせたい後、大人しくみんなの前に行きことりを追わないで欲しいと頼んだのであつた。するとことりを追いかけて居たメンバーは、

穂（ええーなんでことりちゃんが、なんでメイドさんの服を着てたのか聞きたいのに）
海（そうですよ何故ことりがあんなカツコをしていたのか理由を聞きたかつたのです
がまあ、

優太が教えて下さるならそれで私はいいですそれにことりにだけあんな事をして、
わ、わ私もしてごによごによ（／／・／／）カアッツ…）

最初の方はしっかり優太に問いかけて居た海未だが後半になると口をにごよごよ動かすだけで何を言ってる分らないのであった、

そんな海未を見ていた優太以外のメンバーは完全に「ー」だなど思っていた。

花（と、と、とりあえず何故ことり先輩がメイド服を着ていたのか理由を教えてください照井さん!!?）

凜（そうだにや先輩何か知ってるからことり先輩を私達から遠ざけたんでしょ!）

優（うっ（・・・）それはだな、）

理由を知っている優太はことりの秘密を、sのみんなに話さないと約束をしたので言えずにあたふたしていた。

真（まあ照井先輩が知ってても言えないなら本人を探して聞いたらいいいじゃない）

に（でも照井のせいでことりを見失ったのよどうやって探すのよ?）

に（こがどう探すのかを聞いた瞬間優太はホッとして希と絵里以外はあつ!となつていたが、

絵（みんな1人ことりを探せる人がいるじゃない照井君を除いて）

絵里がそう言った瞬間希と優太以外はえ?つとなり誰?と質問したが優太は誰の事を言っているのかわかっていたのでこう言った、

優（ああもう誰か分かったけど、いくら何でも無理だな）

希（ああ〜照井君うちのスピリチュアルパワー信じてへんねえ？ガイアメモリ何て物使つてはるくせに〜）

優（あたりまえだメモリの力とスピリチュアルパワーとは根本的に違うさ）

優太はガイアメモリの力を使っているのにスピリチュアルパワーをあまり信じていなかったが希は学院では、占いをしたら必ず当たる程凄いのだが優太は凄いなと思うがただそれだけだった

穂（希先輩ことりちゃんに行く場所を見つけれらるんですか！）

希（うちに任せとき!!?）

μ、sのメンバーは希のスピリチュアルパワーの凄さを知っていた為盛り上がっていたが優太はことりとの約束を破る訳に行かないので帰ろうとしていた。

優（んじやあ、みんな頑張れよ、俺は話すつもりもないから帰る、ガッシ!!? な、何だ!!?）

ことりの事を話すつもりは無い優太は帰ろうとしたが腕を掴まれてしまった為驚いた、その腕を掴んだ子は、

海（駄目です優太!!?、あなたも連れて行ってことりと一緒に事情を話してもらいますからね）

腕を掴んだのは海未であったその姿を見たメンバーの真姫以外は顔をにやにやさせて2人を見ていた。

優（んな☒、何でだよ！俺は話すつもりは無いし一緒に探すつもりも無い!!？俺はことりとは約束をしてお前達に話さないと云ったんだ、だから俺は帰る）

優太は少しだけ冷たい言い方をして海未に掴まれていた腕を振りほどき帰ろうとしたが、

海（グス、グス優太はそんなに冷たい人だったんですねグス、）

優（うっ？（。∩。）まって海未泣くな、な？）

冷たく言つた事に海未は少し泣きなりながら優太に言つたするとそれを見ていた他のメンバーは、

穂（ああ、優太君が海未ちゃんを泣かした）

花（先輩女の子を泣かせるのはだ、駄目ですよ）

凜（そうだとそうだとかよちんの言う通りだにや）

真（照井先輩って以外に酷い人なんですな）

に（あんた無いわ女の子を泣かすなんて）

希（ああ、あかんやん照井君うちらの可愛い海未ちゃん泣かしたらあ）

そんな子にはわしわしするでえ）

絵（照井君あの言い方は少し駄目よ女の子はそんな言い方には弱いんだから）

他のメンバーからジト目で睨まれながら言いたい放題言われた優太であった、そんなジト目攻撃に耐えられなくなった優太は海未に言った、

優（分かった、分かったから俺も一緒に行つてことりを見つけたらちゃんと2人で事情を話すから、泣かないでくれ海未な？）

そう言つて海未に言ったが海未はまだ泣いていてそれを見て困つていた優太すると海未が、

海（あ、頭を撫でてくれたら許してあげます優太（*ノωノ）ポツ）

優太は海未にそう言われ少し考えたが自分が泣かせてしまったので仕方ないと言い頭を優しく撫でてあげた、その後海未は嬉しいそうに顔を赤くしてありがとうごさいますと言っていた

それを見ていた他のメンバーはため息をついて早く行こうと言つてことりを探しに言ったその数十分後に希のスピリチュアルパワー+タロットカードの力である路地の方にいたことりを希が確保した。

その後は優太とことりは何故こうなつたかの質問攻め受けたのは言うまでもない。

こうしてことりの事情を聞いたメンバー達はとりあえずその話しを明日に持ち越そうという事になり解散しみんなは家に帰つたのであった

そして優太はこのメイドという事で大変目にあうのはまだ少し先の話しだ、
ラブダブル第2話ワンダーゾーンで振り切るぜ！、前編 完